



Informatica® Mass Ingestion
April 2024

一括取り込みファイル

© 著作権 Informatica LLC 2019, 2024

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica Cloud、Informatica Intelligent Cloud Services、PowerCenter、PowerExchange、および Informatica ロゴは、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2024-05-20

目次

序文	5
Informatica のリソース	5
Informatica マニュアル	5
Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト	5
Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ	5
Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス	6
データ統合のコネクタのドキュメント	6
Informatica ナレッジベース	6
Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center	6
Informatica グローバルカスタマサポート	6
第 1 章 : 一括取り込みファイル	7
使用例	7
一括取り込みファイルのソースタイプ	7
コネクタのソースフォルダのパス	8
一括取り込みファイルのターゲットタイプ	9
一括取り込みファイルアクション	10
一括取り込みファイルランタイムオプション	11
一括取り込みファイルのセキュリティ	11
ファイル取り込みタスクの設定	12
始める前に	12
基本的なタスク情報の定義	12
ソースの設定	13
ターゲットの設定	47
ファイル処理アクションの設定	70
ランタイムオプションの設定	71
ファイル取り込みタスクの実行	72
ファイル取り込みジョブの強制終了	72
キーリングコマンドリファレンス	72
createKeyRing	73
createKeyPair	73
listKeys	74
importKeys	75
exportKeyPairs	76
exportPublicKeys	76
deleteKeys	77
changePassphrase	77
第 2 章 : 一括取り込みファイル REST API	78
job リソース	78

activityLog リソース.	84
tasks リソース.	91
ファイル取り込みタスクの表示.	91
ファイル取り込みタスクの作成.	95
ファイル取り込みタスクの更新.	101
ファイル取り込みタスクの場所の表示.	104
ファイル取り込みタスクの削除.	105
索引.	106

序文

一括取り込みサービスのファイル取り込みタスクの設定方法については、「一括取り込みファイル」をお読みください。

ファイル取り込みタスクの設定方法およびデプロイ方法と、サポートされているソースおよびターゲットについて説明します。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト (<http://www.informatica.com/cloud>) にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration>

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers>

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、データ統合コネクタ、テンプレート、およびマップレットを試用したり購入したりできます。

<https://marketplace.informatica.com/>

データ統合のコネクタのドキュメント

データ統合のコネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center (<https://www.informatica.com/trust-center.html>) にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

サブスクライブするには、[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページで **【サブスクライブして更新】** をクリックします。電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィード、またはこの 4 つの任意に組み合わせとして送信される通知を受信するという選択ができます。

Informatica グローバルカスタマサポート

グローバルサポートセンターには、Informatica Network または電話でお問い合わせください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを検索するには、Informatica Intelligent Cloud Services のヘルプメニューで **【サポートにお問い合わせください】** をクリックして、**Cloud Support** ページに移動します。**Cloud Support** ページには、システムステータス情報とコミュニティディスカッションが記載されています。追加のリソースを検索する場合や電子メールで Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせる場合は、Informatica Network にログインし、**【サポートが必要な場合】** をクリックしてください。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html> に掲載されています。

第 1 章

一括取り込みファイル

ファイル取り込みタスクを使用すると、オンプレミスおよびクラウドのリポジトリ間で任意のファイルタイプの大量ファイルを転送し、ファイル転送を追跡および監視することができます。

ファイル取り込みタスクを作成するとき、ファイル転送用のソースおよびターゲットのエンドポイントを定義します。ファイル取り込みタスクを設定して、パフォーマンスを向上させるために複数のファイルをバッチで転送することができます。

タスクを実行するスケジュールを定義する事もできます。ファイルの圧縮、圧縮解除、暗号化または復号化などのアクションを実行するようにタスクを設定する事もできます。

使用例

一括取り込みファイルは、オンプレミスまたはクラウドベースのシステムからクラウドベースのシステムにデータを移行するのに役立ちます。

一括取り込みファイルのソースタイプ

一括取り込みファイルがサポートするオンプレミスおよびクラウドソースからサポートされているターゲットにファイルを転送できます。

ファイル取り込みタスクへのソースの追加は、次の方法で実行できます。

データカタログ検出を使用

組織の管理者によって Enterprise Data Catalog の統合プロパティが設定されている場合は、データカタログ検出を実行して、カタログ内のソースオブジェクトを検索できます。Amazon S3 V2、Microsoft Azure Blob Storage V3、または Hadoop Files V2 オブジェクトを検出して、新しいファイル取り込みタスクのソースとして使用できます。

【データカタログ】 ページでソースオブジェクトを検索し、検索結果でオブジェクトを選択し、新しいファイル取り込みタスクに追加します。

タスクの設定時

ファイル取り込みタスクを設定する際に、ソース接続とソースオブジェクトを【ソース】 タブで選択します。

一括取り込みファイルは、次のソースタイプをサポートしています。

- ソース接続 - 次のソースをサポートしています。
 - ローカルフォルダ
 - Advanced FTP V2
 - Advanced FTPS V2
 - Advanced SFTP V2
 - Amazon S3 V2
 - Cloud 統合ハブ
 - Google Cloud Storage V2
 - Hadoop Files V2
 - Microsoft Azure Blob Storage V3
 - Microsoft Azure Data Lake Store Gen2
 - Microsoft Azure Data Lake Store V3
 - Microsoft Fabric OneLake
- ファイルリスナ - ファイルリスナコンポーネントをソースとして使用します。

これらのソースタイプに使用するコネクタを判断するには、「コネクタと接続」 > 「一括取り込みファイルコネクタ」を参照してください。

詳細については、「[ソースの設定](#)」 (ページ 13)」を参照してください。

コネクタのソースフォルダのパス

接続プロパティの設定中にコネクタのソースフォルダパスに「/」を誤って指定した場合、接続は失敗します。

ファイル取り込みタスクを使用して、オンプレミスとクラウドリポジトリ間であらゆるファイルタイプを持つ多数のファイルの転送を行います。接続を作成し、ファイル取り込みタスクで使用します。ファイル取り込みタスクを作成する場合は、ソースとターゲットの接続を選択し、ソースからターゲットに移動するファイルを指定します。

接続のソースを設定するときは、ソースフォルダパスの前後のスラッシュの使用方法がコネクタ間で異なることに注意してください。スラッシュを誤って使用すると、接続は失敗します。

次の表に、ファイル取り込みタスクで利用できるコネクタと、各コネクタのソースフォルダパスの前後のスラッシュの使用方法を示します。

ソース	フォルダパスの前後のスラッシュの使用方法	フォルダパス
Local_Linux	フォルダパスの前後	/<フォルダパス>/ 例: /root/user/qa/test/automation/RSFiles
Local_Windows	なし	<フォルダパス> 例: C:\user\qa\test\automation
FTPV2	フォルダパスの前後	/<フォルダパス>/ 例: /root/user/qa/test/automation/RSFiles
SFTPV2	フォルダパスの前後	/<フォルダパス>/ 例: /root/user/qa/test/automation/RSFiles

ソース	フォルダパスの前後のスラッシュの使用方法	フォルダパス
FTPSV2	フォルダパスの前後	/<フォルダパス>/ 例: /root/user/qa/test/automation/RSFiles
Amazon S3 V2	なし	<フォルダパス> 例: t-shain-mum/user/qa/test/RSFiles
Google Cloud Storage V2	なし	<フォルダパス> 例: mibucketnew/user/files
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen1	フォルダパスの前	/<フォルダパス> 例: /MIQA/Automation
Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2	フォルダパスの前	/<フォルダパス> 例: /B2B/MI
Microsoft Azure Blob Storage V3	なし	<フォルダパス> 例: snowflakemi/MI
Microsoft Fabric OneLake	なし	<フォルダパス> 例: <Lakehouse Name>/<Files>/<<FolderName>>

一括取り込みファイルのターゲットタイプ

一括取り込みファイルがサポートするソースから、一括取り込みファイルがサポートするオンプレミスおよびクラウドのターゲットにファイルを転送できます。

一括取り込みファイルは、次のターゲットをサポートしています。

- ローカルフォルダ
- Advanced FTP V2
- Advanced FTPS V2
- Advanced SFTP V2
- Amazon S3 V2
- Amazon Redshift V2
- Cloud 統合ハブ
- Google BigQuery V2
- Google Cloud Storage V2
- Hadoop Files V2
- Microsoft Azure Blob Storage V3
- Microsoft Azure Data Lake Store Gen2
- Microsoft Azure Data Lake Store V3
- Microsoft Azure Synapse SQL

- Microsoft Fabric OneLake
- Snowflake Data Cloud
- Databricks Delta

これらのターゲットタイプに使用するコネクタを判断するには、「コネクタと接続」 > 「一括取り込みファイルコネクタ」を参照してください。

一括取り込みファイルアクション

ファイル取り込みタスクを設定する際に、ファイルを転送する前に実行する圧縮、解凍、暗号化、復号化などのファイル処理アクションを定義できます。ファイルをスキャンしてウイルスを検出することもできます。

次のファイル処理アクションは、ファイル取り込みタスクが転送するファイルに対して実行できます。

- 圧縮。Zip、Tar、Bzip2、または Gzip のいずれかの方法を使用してファイルを圧縮します。ファイル取り込みジョブでは、ファイルを圧縮し、ターゲットディレクトリのファイル構造をフラット化します。Zip ファイルの保護にはパスワードを使用できます。
- 解凍。Unzip、Untar、Bunzip2、または Gunzip のいずれかの方法を使用して圧縮ファイルを圧縮解除します。ファイル取り込みジョブでは、ファイルを圧縮解除し、ターゲットディレクトリのファイル構造をフラット化します。Unzip ファイルの保護にはパスワードを使用できます。
- 暗号化。Pretty Good Privacy (PGP) 方式を使用してファイルを暗号化します。ファイル取り込みジョブでは、ファイルを暗号化し、ターゲットディレクトリのファイル構造をフラット化します。Gnu Privacy Guard (GPG) 方式は、ファイルを暗号化する PGP 方式と互換性があります。ファイル取り込みジョブが転送するファイルの保護に関する詳細については、「[「一括取り込みファイルのセキュリティ」 \(ページ 11\)](#)」を参照してください。
- 復号化。PGP 方式を使用してファイルを復号化します。ファイル取り込みタスクでは、ファイルを復号化し、ターゲットディレクトリのファイル構造をフラット化します。GPG 方式は、ファイルを復号化する PGP 方式と互換性があります。ファイル取り込みジョブが転送するファイルの保護に関する詳細については、「[「一括取り込みファイルのセキュリティ」 \(ページ 11\)](#)」を参照してください。
- ファイル操作。ターゲットディレクトリ内のファイルのフラット化や名前変更など、ファイルに対する操作を実行します。異なるフォルダに同じファイル名のファイルが存在する場合、フラット化によってファイルが失われる可能性があります。セッションログにはファイルの上書きが表示されます。
- ウィルススキャン。ICAP (Internet Content Adaptation Protocol) を使用して、ファイル取り込みジョブが転送するファイル内のウイルスとマルウェアを識別します。ICAP サーバーはファイルをスキャンし、ファイルでウイルスが識別されなかった場合は応答コード 200 を送信します。スキャンでウイルスが検出されると、ファイル取り込みジョブは失敗します。

注: ファイル取り込みタスクでは、アクションを設定しない場合、ファイル構造はフラット化されません。

ファイル取り込みジョブは、タスク定義で設定した順序でファイル処理アクションを実行します。

たとえば、ファイルをローカルリポジトリから FTP サーバーに転送する前に、ファイルを圧縮および暗号化する必要があります。

このシナリオでは、次のファイル処理アクションを追加します。

1. Zip のアクションタイプを使用して圧縮します。
2. PGP のアクションタイプを使用して暗号化します。

複数のファイル処理アクションをファイル取り込みタスクに追加できます。ファイル処理アクションの順序をドラッグアンドドロップできます。

一括取り込みファイルランタイムオプション

ファイル取り込みタスクを手動で実行できます。特定の時間に実行する、またはファイルの準備ができたときに実行するように、タスクをスケジュールすることもできます。

タスクが失敗した場合、およびタスクが感染ファイルを検出した場合に通知を受け取ることができます。

ファイル取り込みタスクには複数のジョブを含めることができます。複数のジョブを同時に実行して、ファイル取り込みタスクのパフォーマンスとスケーラビリティを高めることができます。ファイル取り込みタスクを、複数のジョブを同時に実行するように、または一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して複数のジョブを同時に実行するように設定できます。

警告: ターゲットに重複ファイルが含まれている場合、同時ジョブを実行すると予期しない結果が生じる可能性があります。

ファイルのバッチまたは複数のバッチを並行して実行して、大量のファイルの処理時間を短縮できます。並行で実行できるバッチの最大数は、Administrator でランタイム環境に対して設定した fmi-task-max-pool-size および fmi-task-core-pool-size プロパティによって異なります。fmi-task-max-pool-size プロパティは、ファイル取り込みタスクを実行するスレッドの最大数を決定します。fmi-task-max-pool-size の最大値に近いスレッド数は、同じ Secure Agent で実行されている他のジョブのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

ファイル取り込みタスクのスケジューリングと並列バッチの実行の詳細については、[「ランタイムオプションの設定」 \(ページ 71\)](#)を参照してください。

job リソースを使用したタスクの同時実行に関する詳細については、『*REST API リファレンス*』を参照してください。

一括取り込みファイルのセキュリティ

ファイル取り込みジョブが転送するファイルを保護するには、暗号化と復号化の方法を使用します。

ファイル取り込みタスクを定義する場合、使用する暗号化と復号化の方法を指定できます。詳細については、[「一括取り込みファイルアクション」 \(ページ 10\)](#)を参照してください。

ファイル取り込みジョブでは PGP 方式を使用してファイルの暗号化および復号化を行います。ファイルを暗号化するには、キー ID を指定する必要があります。ファイルを復号化するには、キーパスフレーズを指定する必要があります。

エージェントの場所のファイルを更新する特権がある場合、キーリングのコマンドラインインタフェース (CLI) を使用してキー ID を管理します。詳細については、[「キーリングコマンドリファレンス」 \(ページ 72\)](#)を参照してください。エージェントの場所にアクセスする特権がない場合は、管理者にキー ID とキーパスフレーズを問い合わせてください。

注: GPG メソッドは、ファイルを暗号化および復号化する PGP メソッドと互換性があります。

暗号化。

ファイル取り込みタスクの暗号化アクションを設定するときに、キー ID を指定します。キー ID は、ファイルを復号化する受信者のパブリックキー ID のキー ID です。ファイルの接尾辞を指定できます。ファイルに署名するために、プライベートキー ID とキーパスフレーズを追加することもできます。

復号化

ファイル取り込みタスクの復号化アクションを設定するときに、キーパスフレーズを指定します。キーパスフレーズは、ファイルを復号化する受信者のプライベートキーパスフレーズです。

ファイル取り込みタスクの設定

タスクウィザードを使用して、ファイル取り込みタスクを設定します。

ウィザードで、次のアクションを実行します。

1. タスクを定義します。
2. ソースを設定します。
3. ターゲットを設定します。
4. 必要に応じて、1つまたは複数のファイル処理アクションを設定します。
5. 必要に応じて、ランタイムオプションを設定する。

タスクウィザードを使用するときは、**【保存】**をクリックして、いつでも作業を保存できます。ウィザードが完了したら**【完了】**をクリックし、タスクを保存してウィザードを閉じます。

開始する前に、要件が満たされていることを確認してください。詳細については、「[「始める前に」 \(ページ 12\)](#)」を参照してください。

始める前に

ファイル取り込みタスクを作成する前に、次の条件を満たしていることを確認します。

- 組織に一括取り込みファイルおよび FMI パッケージのライセンスがあることを確認してください。
- 一括取り込みアプリケーションが Secure Agent で実行されている。
- ソースとターゲットの接続が、ファイルの転送元のソースからファイルの転送先のターゲットに基づいて存在する。

基本的なタスク情報の定義

ファイル取り込みタスクの定義を開始するには、最初に、タスク名やプロジェクトまたはプロジェクトフォルダの場所など、タスクに関するいくつかの基本情報を入力する必要があります。

1. ファイル取り込みタスクを定義するには、**【新規】** > **【ファイル取り込みタスク】**をクリックします。
ファイル取り込みタスクウィザードの**【定義】**ページが表示されます。
2. 以下のプロパティを設定します。

プロパティ	説明
タスク名	ファイル取り込みタスクの名前。ファイル取り込みタスクの名前は組織内で一意である必要があります。タスク名には、英数字、スペース、およびアンダースコアを含めることができます。名前の先頭には英字またはアンダースコアを指定する必要があります。 タスク名では大文字と小文字が区別されません。
場所	タスクが存在するプロジェクトまたはフォルダ。

プロパティ	説明
説明	タスクの説明（省略可能）。最大長は 1024 文字です。
ランタイム環境	タスクの実行に使用される Secure Agent を含むランタイム環境。ファイル取り込みアプリケーションが Secure Agent で実行されている必要があります。

3. **【次へ】** をクリックします。

ファイル取り込みタスクを編集するには、**【参照】** ページで、タスクに移動します。タスクが含まれている行で、**【アクション】** メニューから **【編集】** を選択します。

ソースの設定

ソースを設定するには、ソースタイプを選択して、ファイルの転送元のソース接続を選択してから、ソースのオプションを設定します。

1. **【ソース】** ページでソースタイプを選択します。
2. ソース接続タイプとソース接続を選択します。

ファイル取り込みタスクは、次のソース接続タイプを使用します。

- ローカルフォルダ
- Advanced FTP V2
- Advanced FTPS V2
- Advanced SFTP V2
- Amazon S3 V2
- Cloud 統合ハブ
- Google Cloud Storage V2
- Hadoop Files V2
- Microsoft Azure Blob Storage V3
- Microsoft Azure Data Lake Store Gen2
- Microsoft Azure Data Lake Store V3
- Microsoft Fabric OneLake

3. 選択したソース接続に基づいて、ソースのオプションを入力します。

タスクウィザードの **【ソース】** タブに表示されるオプションは、選択するソース接続のタイプによって異なります。

4. **【次へ】** をクリックします。

【ターゲット】 タブが表示されます。

Advanced FTP V2 ソースのプロパティ

Advanced FTP V2 ソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの **【ソース】** タブにソースのオプションを入力する必要があります。オプションは、タスクに選択したファイルのピックアップ方法によって異なります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターン、フォルダ、およびテーブルのパラメータを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」\(ページ 78\)](#)を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

オプション	説明
ファイルピックアップ	<p>ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン別。 ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。 - ファイルリスト別。 ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	<p>ファイルの転送元のディレクトリです。デフォルト値は接続で指定されたソースディレクトリです。</p> <p>ソースファイルシステムへの相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたソースディレクトリの相対パスです。</p>
パラメータの追加	<p>式を作成し、ソースディレクトリパラメータとして追加します。詳細については、「ソースとターゲットのパラメータ」(ページ 43)を参照してください。</p>
ファイルパターン	<p>これは 【ファイルピックアップ】 が 【パターン別】 の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。パターンは、正規表現またはワイルドカード文字を使用したパターンにすることができます。</p> <p>次のワイルドカード文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。 - クエスチョンマーク (?) 単一の文字を表す。 <p>例えば、次のような正規表現を指定できます。</p> <p>([a-zA-Z0-9\s_\\.\-\\(\):])+(.doc .docx .pdf)\$</p>
ファイル日付	<p>これは 【ファイルピックアップ】 が 【パターン別】 の場合に適用されます。転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。 指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。 - 以下。 指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。 - 等しい。 指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。 - 本日までの日数。 指定した現在の日付（本日）までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 <p>たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、【本日までの日数】 を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。</p>
時間帯	<p>これは 【ファイルピックアップ】 が 【パターン別】 の場合に適用されます。【ファイル日付】 オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。</p>

オプション	説明
ファイルサイズ	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きいか等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします。
ファイルのリストを含むファイルパス	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを含むファイルパスを指定するには、このオプションを選択します。ファイルには、ファイル名のカンマ区切りリストを必ず入力してください。</p>
ファイルリスト	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを指定し、ファイル名のコンマ区切りリストを入力するには、このオプションを選択します。</p>
重複したファイルをスキップ	<p>重複したファイルをスキップするかどうかを示します。このオプションを選択した場合、ファイル取り込みタスクは、別のファイルと同じ名前とサイズのファイルは転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。このオプションを選択しない場合、タスクは、名前と作成日が重複しているファイルも含め、すべてのファイルを転送します。</p> <p>重複したファイルのスキップに関する情報の転送の詳細については、「重複するファイルをスキップ」 (ページ 46) を参照してください。</p>
ファイルの安定性を確認	<p>ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。</p>
安定性確認間隔	<p>これは、【ファイルの安定性を確認】オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>例えば、安定性確認時間が 15 秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15 秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。</p> <p>この間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。デフォルトは 10 秒です。</p>
バッチサイズ	<p>ファイル取り込みタスクが 1 回のバッチで転送できるファイル数。</p> <p>デフォルトは 5 です。バッチで転送できるファイルの最大数は 20 です。</p> <p>バッチの最大値は、中間ステージング領域を通じてファイルが転送されるかどうかに基づいて異なります。</p>

オプション	説明
転送モード	<p>ファイル転送モード。次のいずれかのモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 【自動】。一括取り込みファイルにより、転送モードが決定されます。 - ASCII。 - バイナリ。 <p>注: ネットワークの中断によりバイナリファイル転送が中断された場合、ファイルイベントには中断ステータスが表示されます。ファイル取り込みジョブを再度実行して、中断されたファイルの転送を再開します。</p>
ファイルのピックアップ後	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - ソースディレクトリからファイルを削除します。 - ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル取り込みタスクがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。次のいずれかの変数を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - (\$date) - (\$time) - (\$timestamp) - (\$runId) - 別の場所にファイルをアーカイブします。ファイルシステムからの絶対パスまたは相対パスでアーカイブディレクトリを指定する必要があります。

Advanced FTPS V2 ソースのプロパティ

Advanced FTPS V2 ソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【ソース】タブにソースのプロパティを入力する必要があります。オプションは、タスクに選択したファイルのピックアップ方法によって異なります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターン、フォルダ、およびテーブルのパラメータを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」](#) (ページ 78) を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

オプション	説明
ファイルピックアップ	<p>ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン別。ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。 - ファイルリスト別。ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	<p>ファイルの転送元のディレクトリです。デフォルト値は接続で指定されたソースディレクトリです。</p> <p>ソースファイルシステムへの相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたソースディレクトリの相対パスです。</p>
パラメータの追加	<p>式を作成し、ソースディレクトリパラメータとして追加します。詳細については、「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43) を参照してください。</p>

オプション	説明
サブフォルダのファイルを含む	これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。定義したソースディレクトリにあるすべてのサブフォルダからファイルを転送します。
ファイルパターン	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。パターンは、正規表現またはワイルドカード文字を使用したパターンにすることができます。</p> <p>次のワイルドカード文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。 - クエスチョンマーク (?) 単一の文字を表す。 <p>例えば、次のような正規表現を指定できます。</p> <p><code>([a-zA-Z0-9\s_\.\-\(\)\:])+(\.doc \.docx \.pdf)\$</code></p>
ファイル日付	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。 指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。 - 以下。 指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。 - 等しい。 指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。 - 本日までの日数。 指定した現在の日付（本日）までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 <p>たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、【本日までの日数】を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。</p>
時間帯	これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。【ファイル日付】オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。
ファイルサイズ	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。 指定したサイズよりも大きい等しいファイルをフィルタします。 - 以下。 指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。 指定したサイズのファイルをフィルタします。
ファイルのリストを含むファイルパス	これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを含むファイルパスを指定するには、このオプションを選択します。ファイルには、ファイル名のカンマ区切りリストを必ず入力してください。
ファイルリスト	これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを指定し、ファイル名のコンマ区切りリストを入力するには、このオプションを選択します。

オプション	説明
重複したファイルをスキップ	重複したファイルをスキップするかどうかを示します。このオプションを選択した場合、ファイル取り込みタスクは、別のファイルと同じ名前とサイズのファイルは転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。このオプションを選択しない場合、タスクは、名前と作成日が重複しているファイルも含め、すべてのファイルを転送します。
ファイルの安定性を確認	ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。
安定性確認間隔	これは、 【ファイルの安定性を確認】 オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。 例えば、安定性確認時間が 15 秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15 秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。 この間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。デフォルトは 10 秒です。
バッチサイズ	ファイル取り込みタスクが 1 回のバッチで転送できるファイル数。 デフォルトは 5 です。バッチで転送できるファイルの最大数は 20 です。
転送モード	ファイル転送モード。次のいずれかのモードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> - 自動。一括取り込みファイルにより、転送モードが決定されます。 - ASCII。 - バイナリ。 注: ネットワークの中断によりバイナリファイル転送が中断された場合、ファイルイベントには中断ステータスが表示されます。ファイル取り込みジョブを再度実行して、中断されたファイルの転送を再開します。
ファイルのピックアップ後	ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> - ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - ソースディレクトリからファイルを削除します。 - ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル取り込みタスクがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。次のいずれかの変数を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - (\$date) - (\$time) - (\$timestamp) - (\$runId) - 別の場所にファイルをアーカイブします。ファイルシステムからの絶対パスまたは相対パスでアーカイブディレクトリを指定する必要があります。

Advanced SFTP V2 ソースのプロパティ

Advanced SFTP V2 ソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの**【ソース】** タブにソースのオプションを入力する必要があります。オプションは、タスクに選択したファイルのピックアップ方法によって異なります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターン、フォルダ、およびテーブルのパラメータを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」](#) (ページ 78) を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

オプション	説明
ファイル ピック アップ	<p>ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン別。ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。 - ファイルリスト別。ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	<p>ファイルの転送元のディレクトリです。デフォルト値は接続で指定されたソースディレクトリです。</p> <p>ソースファイルシステムへの相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたソースディレクトリの相対パスです。</p>
パラメータの追加	<p>式を作成し、ソースディレクトリとして追加します。詳細については、「「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43)」を参照してください。</p>
サブフォルダのファイルを含む	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。定義したソースディレクトリにあるすべてのサブフォルダからファイルを転送します。</p>
ファイルパターン	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。パターンは、正規表現またはワイルドカード文字を使用したパターンにすることができます。</p> <p>次のワイルドカード文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。 - クエスチョンマーク (?) 単一の文字を表す。 <p>例えば、次のような正規表現を指定できます。</p> <pre>([a-zA-Z0-9\s_\.\\.\-\\(\):]+)(.doc .docx .pdf)\$</pre>
ファイル日付	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。 - 以下。指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。 - 等しい。指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。 - 本日までの日数。指定した現在の日付（本日）までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 <p>たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、【本日までの日数】を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。</p>
時間帯	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。【ファイル日付】オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。</p>

オプション	説明
ファイルサイズ	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きいか等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします。
ファイルのリストを含むファイルパス	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを含むファイルパスを指定するには、このオプションを選択します。ファイルには、ファイル名のカンマ区切りリストを必ず入力してください。</p>
ファイルリスト	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを指定し、ファイル名のコンマ区切りリストを入力するには、このオプションを選択します。</p>
重複したファイルをスキップ	<p>重複したファイルをスキップするかどうかを示します。このオプションを選択した場合、ファイル取り込みタスクは、別のファイルと同じ名前とサイズのファイルは転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。このオプションを選択しない場合、タスクは、名前と作成日が重複しているファイルも含め、すべてのファイルを転送します。</p>
ファイルの安定性を確認	<p>ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。</p>
安定性確認間隔	<p>これは、【ファイルの安定性を確認】オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>例えば、安定性確認時間が 15 秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15 秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。</p> <p>この間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。デフォルトは 10 秒です。</p>
バッチサイズ	<p>ファイル取り込みタスクが 1 回のバッチで転送できるファイル数。</p> <p>デフォルトは 5 です。バッチで転送できるファイルの最大数は 20 です。</p>
ファイルのピックアップ後	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - ソースディレクトリからファイルを削除します。 - ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル取り込みタスクがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。次のいずれかの変数を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - (\$date) - (\$time) - (\$timestamp) - (\$runId) - 別の場所にファイルをアーカイブします。ファイルシステムからの絶対パスまたは相対パスでアーカイブディレクトリを指定する必要があります。

Amazon S3 V2 ソースのプロパティ

Amazon S3 V2 ソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【ソース】タブにソースのオプションを入力する必要があります。オプションは、タスクに選択したファイルのピックアップ方法によって異なります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターン、フォルダ、およびテーブルのパラメータを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」](#) (ページ 78) を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

オプション	説明
ファイルピックアップ	ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。 <ul style="list-style-type: none">- パターン別。 ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。- ファイルリスト別。 ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	バケット名など、ファイルの転送元である Amazon S3 フォルダパスです。デフォルト値は接続プロパティで指定されたフォルダパスです。 ソースファイルシステムへの相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたソースディレクトリの相対パスです。 注: バケットおよび特定のフォルダにアクセスするための十分な特権があることを確認します。
パラメータの追加	式を作成し、 フォルダパス パラメータとして追加します。詳細については、 「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43) を参照してください。
サブフォルダのファイルを含む	これは【 ファイルピックアップ 】が【 パターン別 】の場合に適用されます。定義したソースディレクトリにあるすべてのサブフォルダからファイルを転送します。
ファイルパターン	これは【 ファイルピックアップ 】が【 パターン別 】の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。 パターンで、以下のワイルドカード文字を使用できます。 <ul style="list-style-type: none">- アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。- クエスチョンマーク (?) 単一の文字を表す。
ファイル日付	これは【 ファイルピックアップ 】が【 パターン別 】の場合に適用されます。転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- 以上。 指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。- 以下。 指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。- 等しい。 指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。- 本日までの日数。 指定した現在の日付までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、 【本日までの日数】 を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。

オプション	説明
時間帯	これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。【ファイル日付】オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。
ファイルサイズ	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか1つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きいか等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします
ファイルのリストを含むファイルパス	これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。このオプションを選択して、ピックアップするファイルのリストを含むパスを指定し、ファイルパスを入力します。ファイルには、ファイル名のカンマ区切りリストを必ず入力してください。
ファイルリスト	これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを指定し、ファイル名のコンマ区切りリストを入力するには、このオプションを選択します。
重複したファイルをスキップ	重複したファイルをスキップするかどうかを示します。このオプションを選択した場合、ファイル取り込みタスクは、別のファイルと同じ名前とサイズのファイルは転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。このオプションを選択しない場合、タスクは、名前と作成日が重複しているファイルも含め、すべてのファイルを転送します。
ファイルの安定性を確認	ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。
安定性確認間隔	<p>これは、【ファイルの安定性を確認】オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>例えば、安定性確認時間が15秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。</p> <p>この間隔は、10秒から300秒の範囲です。デフォルトは10秒です。</p>
バッチサイズ	<p>ファイル取り込みタスクが1回のバッチで転送できるファイル数。</p> <p>デフォルトは5です。</p> <p>バッチの最大値は、中間ステージングサーバーを通じてファイルが転送されるかどうかによって異なります。</p> <p>ファイル取り込みタスクでは、ファイルが次のソースエンドポイントからターゲットエンドポイントに転送される場合には、中間ステージングサーバーを介してファイルを転送しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Amazon S3 から Amazon Redshift（中間ステージングを使用しないファイル転送を選択した場合） - Amazon S3 から Snowflake <p>バッチサイズを定義する場合は、以下のガイドラインに従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 中間ステージングサーバーなしでファイルをソースからターゲットに転送する場合、1回のバッチで転送できるファイルの最大数は8000です。 - ファイルが中間ステージングサーバーを通過する場合は、1回のバッチで転送できるファイルの最大数は20です。 - 任意のソースから Snowflake ターゲットにファイルを転送する場合、1回のバッチで転送できるファイルの最大数は1000です。

オプション	説明
ファイル暗号化タイプ	<p>ファイル転送中に使用する Amazon S3 ファイル暗号化のタイプです。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。ファイルはファイル転送中に暗号化されません。デフォルトは【なし】です。 - S3 サーバーサイド暗号化。Amazon S3 は、AWS によって管理された暗号化キーを使用することでファイルを暗号化します。 - S3 クライアントサイド暗号化。無制限のポリシーが AgentJVM に対して実装されていること、および接続のマスタ対称キーが設定されていることを確認します。
S3 高速化転送	<p>S3 バケットで Amazon S3 の転送高速化を使用するかどうかを選択します。</p> <p>転送高速化を使用するには、高速化転送をバケットで有効にする必要があります。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 無効。Amazon S3 の転送高速化を使用しないでください。 - 高速。Amazon S3 の転送高速化を使用します。 - デュアルスタック高速。デュアルスタックエンドポイントで Amazon S3 の転送高速化を使用します。
最小ダウンロードパートサイズ	<p>複数の独立したパートセットとしてサイズの大きなファイルをダウンロードする場合の最小ダウンロードパートサイズ。</p>
マルチパートダウンロードしきい値	<p>複数のパートにオブジェクトを同時にアップロードするタイミングを決定するために使用されるメガバイト単位のマルチパートダウンロードの最小しきい値。</p>
ファイルのピックアップ後	<p>タスクがソースファイルをターゲットにストリーミングした後、ソースファイルをどのように処理するかを決定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - ソースディレクトリからファイルを削除します。 - ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル取り込みタスクがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。次のいずれかの変数を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - (\$date) - (\$time) - (\$timestamp) - (\$runId) - 別の場所にファイルをアーカイブします。ソースファイルシステムへの絶対パスまたは相対パスでアーカイブディレクトリを指定する必要があります。

Cloud 統合ハブのソースプロパティ

Cloud 統合ハブのソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【ソース】タブにソースのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

オプション	説明
ファイルピックアップ	ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。ファイルリストは、ファイル名のカンマ区切りリストで構成されます。ファイルリストオプションは、Cloud 統合ハブのサブスクリプションから自動的に取り込まれ、これを編集することはできません。
バッチサイズ	ファイル取り込みタスクが 1 回のバッチで転送できるファイル数。デフォルトは 5 です。バッチで転送できるファイルの最大数は 20 です。
ファイルのピックアップ後	ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- ソースディレクトリ内でファイルを保持します。- ソースディレクトリからファイルを削除します。- ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル取り込みタスクがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。次のいずれかの変数を入力します。<ul style="list-style-type: none">- (\$date)- (\$time)- (\$timestamp)- (\$runId)- 別の場所にファイルをアーカイブします。ソースファイルシステム上の絶対パスまたは相対パスを入力する必要があります。

注:

- ソースとターゲットの両方に Cloud 統合ハブを使用して、ファイル取り込みタスクを設定することはできません。
- ソースまたはターゲットに Cloud 統合ハブを使用してファイル取り込みタスクを手動で実行することはできません。Cloud 統合ハブサービスからファイル取り込みタスクを実行する必要があります。Cloud 統合ハブサービスからタスクを実行する方法の詳細については、Cloud 統合ハブのユーザーガイドを参照してください。

ファイルリスナソースのプロパティ

ファイル取り込みタスクを実行するためにファイルリスナを使用する場合は、ファイルリスナをソースタイプとして設定します。

ファイルリスナをソースとして設定するには、データ統合サービスでファイルリスナを作成する必要があります。ファイルリスナの作成については、データ統合ヘルプの「コンポーネント」を参照してください。

注: ファイル取り込みユーザーインターフェースから、ファイルリスナをソースとして使用したファイル取り込みタスクは実行できません。ファイルリスナが開始しているときは、ファイルリスナをソースとして使用したファイル取り込みタスクは自動的に実行されます。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

オプション	説明
ファイルパターン	<p>転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。パターンは、正規表現またはワイルドカード文字を使用したパターンにすることができます。</p> <p>次のワイルドカード文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。 - クエスチョンマーク (?) 単一の文字を表す。 <p>例えば、次のような正規表現を指定できます。</p> <pre>([a-zA-Z0-9\s_\.\\.\-\\(\):])+(\.doc \.docx \.pdf)\$</pre>
ファイル日付	<p>転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。 - 以下。指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。 - 等しい。指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。 - 本日までの日数。指定した現在の日付（本日）までの日数以内に更新されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 <p>たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に更新されたファイルをフィルタする場合、【本日までの日数】を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。</p>
時間帯	<p>【ファイル日付】 オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。</p>
ファイルサイズ	<p>ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きいか等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします
重複したファイルをスキップ	<p>重複したファイルをスキップするかどうかを示します。このオプションを選択した場合、ファイル取り込みタスクは、別のファイルと同じ名前とサイズのファイルは転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。このオプションを選択しない場合、タスクは、名前と作成日が重複しているファイルも含め、すべてのファイルを転送します。</p>

オプション	説明
バッチサイズ	ファイル取り込みタスクが 1 回のバッチで転送できるファイル数。 デフォルトは 5 です。
ファイルのピックアップ後	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - ソースディレクトリからファイルを削除します。 - ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル取り込みタスクがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。次のいずれかの変数を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - (\$date) - (\$time) - (\$timestamp) - (\$runld) - 別の場所にファイルをアーカイブします。アーカイブディレクトリを指定する必要があります。

Google Cloud Storage V2 ソースのプロパティ

Google Cloud Storage V2 ソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【ソース】タブにソースのオプションを入力する必要があります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターン、フォルダ、およびテーブルのパラメータを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」](#) (ページ 78) を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

オプション	説明
ファイルピックアップ	<p>ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン別。ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。 - ファイルリスト別。ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	<p>ファイルの転送元のディレクトリです。</p> <p>ソースファイルシステムへの相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたソースディレクトリの相対パスです。</p>
パラメータの追加	式を作成し、 ソースディレクトリ パラメータとして追加します。詳細については、 「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43) を参照してください。
サブフォルダのファイルを含む	定義したソースディレクトリにあるすべてのサブフォルダからファイルを転送します。

オプション	説明
ファイルパターン	<p>転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。パターンは、正規表現またはワイルドカード文字を使用したパターンにすることができます。</p> <p>次のワイルドカード文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。 - クエスションマーク (?) 単一の文字を表す。 <p>例えば、次のような正規表現を指定できます。</p> <pre>([a-zA-Z0-9\s_\\.\-\\(\):])+(\.doc \.docx \.pdf)\$</pre>
ファイル日付	<p>転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。 - 以下。指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。 - 等しい。指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。 - 本日までの日数。指定した現在の日付（本日）までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 <p>たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、【本日までの日数】 を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。</p>
時間帯	<p>【ファイル日付】 オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。</p>
ファイルサイズ	<p>ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きい等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします。
重複したファイルをスキップ	<p>重複したファイルをスキップするかどうかを示します。このオプションを選択した場合、ファイル取り込みタスクは、別のファイルと同じ名前とサイズのファイルは転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。このオプションを選択しない場合、タスクは、名前と作成日が重複しているファイルも含め、すべてのファイルを転送します。</p>
ファイルの安定性を確認	<p>ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。</p>
安定性確認間隔	<p>これは、【ファイルの安定性を確認】 オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>例えば、安定性確認時間が 15 秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15 秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。</p> <p>この間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。デフォルトは 10 秒です。</p>

オプション	説明
バッチサイズ	<p>ファイル取り込みタスクが 1 回のバッチで転送できるファイル数。 デフォルトは 5 です。</p> <p>最大バッチサイズは、次の条件に基づいて異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 中間ステージングサーバーなしでファイルをソースからターゲットに転送する場合、1 回のバッチで転送できるファイルの最大数は 8000 です。 - ファイルが中間ステージングサーバーを通過する場合は、1 回のバッチで転送できるファイルの最大数は 20 です。 - 任意のソースから Snowflake ターゲットにファイルを転送する場合、1 回のバッチで転送できるファイルの最大数は 1000 です。 <p>注: Google Cloud Storage から Google BigQuery にファイルを転送する場合、タスクは中間ステージングサーバーなしでファイルを転送します。</p>
ファイルのピックアップ後	<p>ファイル転送後にソースファイルに対して実行するアクションを決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - ソースディレクトリからファイルを削除します。 - ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル取り込みタスクがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。次のいずれかの変数を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - (\$date) - (\$time) - (\$timestamp) - (\$runId) - 別の場所にファイルをアーカイブします。ファイルシステムからの絶対パスまたは相対パスでアーカイブディレクトリを指定する必要があります。アーカイブディレクトリは、ソースファイルシステムのサブフォルダ構造を維持するのに役立ちます。 <p>例えば、/root/archive がアーカイブディレクトリ、/root/test がソースディレクトリ、sub1 と sub2 がソースディレクトリ内のディレクトリで、サブフォルダのファイルを含めるように選択した場合、アーカイブディレクトリのフォルダ構造は /root/archive/sub1、/root/archive/sub2 になります。</p>

Hadoop Files V2 ソースのプロパティ

Hadoop Files V2 ソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの **【ソース】** タブにソースのオプションを入力する必要があります。オプションは、タスクに選択したファイルのピックアップ方法によって異なります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターン、フォルダ、およびテーブルのパラメータを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」\(ページ 78\)](#)を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

オプション	説明
ファイルピックアップ	<p>ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン別。ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。 - ファイルリスト別。ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	ファイルの転送元のディレクトリです。

オプション	説明
パラメータの追加	式を作成し、 ソースディレクトリパラメータ として追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」(ページ 43)を参照してください。
サブフォルダのファイルを含む	これは【 ファイルピックアップ 】が【 パターン別 】の場合に適用されます。定義したソースディレクトリにあるすべてのサブフォルダからファイルを転送します。
ファイルパターン	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。選択したファイルパターンに基づき、ファイル名のパターンを入力します。</p> <p>次のいずれかのファイルパターンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ワイルドカード。以下のワイルドカード文字フィルタを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。 - 疑問符 (?) は単一の文字を表す。 - 正規表現。正規表現を使用してパターンタイプを照合します。次の例について考えてみます。 <ul style="list-style-type: none"> - <code>^(?!.*(?:out baz foo)).*\$</code> all except 名前に out、foo および baz を含むファイルを除くすべてのファイルを示します。 - <code>([a-zA-Z0-9s_\.\-\\(\):])+(.doc .docx .pdf)\$</code> 拡張子が doc、docx または pdf のすべてのファイルを示します。 - <code>^(?!out).*\.txt\$</code> 名前に out.txt を含むファイルを除くすべてのファイルを示します。
ファイル日付	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。 - 以下。指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。 - 等しい。指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。 - 本日までの日数。指定した現在の日付（本日）までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 <p>たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、【本日までの日数】を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。</p>
時間帯	これは【 ファイルピックアップ 】が【 パターン別 】の場合に適用されます。【 ファイル日付 】オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。

オプション	説明
ファイルサイズ	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか1つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きいか等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします
ファイルのリストを含むファイルパス	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを含むファイルパスを指定するには、このオプションを選択します。ファイルには、ファイル名のカンマ区切りリストを必ず入力してください。</p>
ファイルリスト	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを指定し、ファイル名のコンマ区切りリストを入力するには、このオプションを選択します。</p>
重複したファイルをスキップ	<p>重複したファイルをスキップするかどうかを示します。このオプションを選択した場合、ファイル取り込みタスクは、別のファイルと同じ名前とサイズのファイルは転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。このオプションを選択しない場合、タスクは、名前と作成日が重複しているファイルも含め、すべてのファイルを転送します。</p>
ファイルの安定性を確認	<p>ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。</p>
安定性確認間隔	<p>これは、【ファイルの安定性を確認】オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>例えば、安定性確認時間が15秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。</p> <p>この間隔は、10秒から300秒の範囲です。デフォルトは10秒です。</p>
バッチサイズ	<p>ファイル取り込みタスクが1回のバッチで転送できるファイル数。デフォルトは5です。</p>

ローカルフォルダソースのプロパティ

ローカルフォルダソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【ソース】タブにソースのプロパティを入力する必要があります。オプションは、タスクに選択したファイルのピックアップ方法によって異なります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターン、フォルダ、およびテーブルのパラメータを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」\(ページ 78\)](#)を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

オプション	説明
ファイルピックアップ	<p>ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン別。ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。 - ファイルリスト別。ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	<p>ファイルの転送元のディレクトリです。Secure Agent がこのディレクトリにアクセスできる必要があります。</p> <p>ソースフォルダパスの前後のスラッシュの使用は、コネクタ間で異なります。スラッシュを誤って使用すると、接続に失敗します。詳細については、Knowledge Base 記事を参照してください。625869</p> <p>注: ファイルリサナは、NFS および CIFS をサポートするネットワーク共有上のファイルおよびディレクトリにアクセスできます。</p>
パラメータの追加	<p>式を作成し、ソースディレクトリパラメータとして追加します。詳細については、「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43)を参照してください。</p>
サブフォルダのファイルを含む	<p>これは 【ファイルピックアップ】 が 【パターン別】 の場合に適用されます。定義したソースディレクトリにあるすべてのサブフォルダからファイルを転送します。</p>
ファイルパターン	<p>これは 【ファイルピックアップ】 が 【パターン別】 の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。選択したファイルパターンに基づき、ファイル名のパターンを入力します。</p> <p>次のファイルパターンを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ワイルドカード。以下のワイルドカード文字フィルタを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - アスタリスク (*) はどんな数の文字とも一致します。 - クエスチョンマーク (?) 1つの文字と一致します。 - 正規表現。正規表現を使用してパターンタイプを照合します。次の例について考えてみます。 <ul style="list-style-type: none"> - <code>^(?!.*(?:out baz foo)).*\$</code> all except 名前に out、foo および baz を含むファイルを除くすべてのファイルを示します。 - <code>([a-zA-Z0-9s_\.\-\(\)\:])+(\.doc \.docx \.pdf)\$</code> 拡張子が doc、docx または pdf のすべてのファイルを示します。 - <code>^(?!out).*\.txt\$</code> 名前に out.txt を含むファイルを除くすべてのファイルを示します。

オプション	説明
ファイル日付	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。 - 以下。指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。 - 等しい。指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。 - 本日までの日数。指定した現在の日付（本日）までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 <p>たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、【本日までの日数】を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。</p>
タイムゾーン	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。【ファイル日付】オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。</p>
ファイルサイズ	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きい等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします。
ファイルのリストを含むファイルパス	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを含むファイルパスを指定するには、このオプションを選択します。ファイルには、ファイル名のカンマ区切りリストを必ず入力してください。</p>
ファイルリスト	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを指定し、ファイル名のコンマ区切りリストを入力するには、このオプションを選択します。</p>
重複したファイルをスキップ	<p>重複したファイルをスキップするかどうかを示します。このオプションを選択した場合、ファイル取り込みタスクは、別のファイルと同じ名前とサイズのファイルは転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。このオプションを選択しない場合、タスクは、名前と作成日が重複しているファイルも含め、すべてのファイルを転送します。</p>
ファイルの安定性を確認	<p>ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。</p>

オプション	説明
安定性確認間隔	<p>これは、【ファイルの安定性を確認】 オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>例えば、安定性確認時間が 15 秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15 秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。</p> <p>この間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。デフォルトは 10 秒です。</p>
バッチサイズ	<p>ファイル取り込みタスクが 1 回のバッチで転送するファイルの最大数。デフォルトは 5 です。バッチで転送できるファイルの最大数は 20 です。最大バッチサイズは、次の条件に基づいて異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - タスクが中間ステージングなしでソースからターゲットにファイルを転送する場合、タスクが 1 回のバッチで転送できるファイルの最大数は 8000 です。 - タスクが中間ステージングを使用してソースからターゲットにファイルを転送する場合、タスクが 1 回のバッチで転送できる最大ファイル数は 20 です。 - 任意のソースから Snowflake ターゲットにファイルを転送する場合、タスクが 1 回のバッチで転送できるファイルの最大数は 1000 です。 <p>バッチサイズを定義する場合は、以下のガイドラインに従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 次のシナリオでは、タスクは中間ステージングなしでファイルを転送します。 <ul style="list-style-type: none"> - 中間ステージングなしでファイルをアップロードするように Amazon Redshift Connector が構成されている場合の Amazon S3 から Amazon Redshift へのファイル転送 - Google Cloud Storage から Google BigQuery へのファイル転送 - Azure Blob から Microsoft Azure Data Warehouse へのファイル転送 - Amazon S3 および Azure Blob から Snowflake へのファイル転送 - コマンドラインを使用してファイルを転送する場合、タスクは中間ステージングを使用してファイルを転送します。
ファイルのピックアップ後	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。</p> <p>選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - ソースディレクトリからファイルを削除します。 - ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル取り込みタスクがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。次のいずれかの変数を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - (\$date) - (\$time) - (\$timestamp) - (\$runId) - 別の場所にファイルをアーカイブします。アーカイブディレクトリを指定する必要があります。

Microsoft Azure Blob Storage V3 ソースのプロパティ

Microsoft Azure Blob Storage ソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの **【ソース】** タブにソースのオプションを入力する必要があります。オプションは、タスクに選択したファイルのピックアップ方法によって異なります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターン、フォルダ、およびテーブルのパラメータを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」](#) [\(ページ 78\)](#) を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

詳細ソースプロパティ	説明
ファイルピックアップ	<p>ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン別。ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。 - ファイルリスト別。ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	<p>ファイルの転送元となる Microsoft Azure Blob Storage ディレクトリ。パスにはコンテナ名を含めます。デフォルト値は接続で指定されたコンテナパスです。</p> <p>ソースファイルシステムへの相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたソースディレクトリの相対パスです。</p>
パラメータの追加	<p>式を作成し、フォルダパスパラメータとして追加します。詳細については、「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43)を参照してください。</p>
サブフォルダのファイルを含む	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。フォルダパスにあるサブフォルダからファイルを転送します。</p>
ファイルパターン	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。正規表現またはワイルドカード文字を使用できます。</p> <p>次のワイルドカード文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。 - クエスチョンマーク (?) 単一の文字を表す。 <p>例えば、次のような正規表現を指定できます。</p> <pre>([a-zA-Z0-9\s_\\.\-\\(\):])+(.doc .docx .pdf)\$</pre>
ファイル日付	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。 - 以下。指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。 - 等しい。指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。 - 本日までの日数。指定した現在の日付（本日）までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 <p>たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、【本日までの日数】を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。</p>
時間帯	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。【ファイル日付】オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。</p>

詳細ソースプロパティ	説明
ファイルサイズ	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きいか等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします
ファイルのリストを含むファイルパス	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを含むファイルパスを指定するには、このオプションを選択します。ファイルには、ファイル名のカンマ区切りリストを必ず入力してください。</p>
ファイルリスト	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを指定し、ファイル名のコンマ区切りリストを入力するには、このオプションを選択します。</p>
重複したファイルをスキップ	<p>重複したファイルは転送しないでください。ファイル取り込みタスクによって、同じ名前とサイズのファイルが転送済みである場合、タスクはファイルを再度転送せずにジョブログでファイルを重複とマークします。このオプションが選択されていない場合、タスクはすべてのファイルを転送します。</p>
ファイルの安定性を確認	<p>ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。</p>
安定性確認間隔	<p>これは、【ファイルの安定性を確認】オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>例えば、安定性確認時間が 15 秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15 秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。</p> <p>この間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。デフォルトは 10 秒です。</p>
バッチサイズ	<p>ファイル取り込みタスクが 1 回のバッチで転送できるファイル数。</p> <p>デフォルトは 5 です。</p> <p>最大バッチサイズは、次の条件に基づいて異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 中間ステージングサーバーなしでファイルをソースからターゲットに転送する場合、タスクが 1 回のバッチで転送できるファイルの最大数は 8000 です。 - ファイルが中間ステージングサーバーを通過する場合は、タスクが 1 回のバッチで転送できるファイルの最大数は 20 です。 - 任意のソースから Snowflake ターゲットにファイルを転送する場合、タスクが 1 回のバッチで転送できるファイルの最大数は 1000 です。 <p>注: Azure Blob Storage から Azure SQL Data Warehouse および Snowflake にファイルを転送する場合、タスクは中間ステージングなしでファイルを転送します。</p>

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ソースのプロパティ

ファイル取り込みタスクでは、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ソースから Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ターゲット、またはファイル取り込みタスクがサポートするターゲットへファイルが転送

されるように Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ソースのプロパティを設定できます。ソースのオプションは、タスクに選択したファイルのピックアップ方法によって異なります。

タスクが Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ソースから Databricks Delta ターゲットにファイルを転送する場合、ファイルは Parquet 形式で Databricks Delta ターゲットと同じスキーマを持つ必要があります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターン、フォルダ、およびテーブルのパラメータを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」](#) (ページ 78) を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

詳細ソースプロパティ	説明
ファイルピックアップ	ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。 <ul style="list-style-type: none">- パターン別。 ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。- ファイルリスト別。 ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	ファイルの転送元となる Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 フォルダパス。デフォルト値は接続で指定されたコンテナパスです。ソースディレクトリはスラッシュ (/) で始まる必要があります。 ソースファイルシステムへの相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたソースディレクトリの相対パスです。
パラメータの追加	式を作成し、 ソースディレクトリ パラメータとして追加します。詳細については、 「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43) を参照してください。
サブフォルダのファイルを含む	これは 【ファイルピックアップ】 が 【パターン別】 の場合に適用されます。フォルダパスにあるサブフォルダからファイルを転送します。
ファイルパターン	これは 【ファイルピックアップ】 が 【パターン別】 の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。正規表現またはワイルドカード文字を使用できます。 次のワイルドカード文字を使用できます。 <ul style="list-style-type: none">- アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。- クエスチョンマーク (?) 単一の文字を表す。 例えば、次のような正規表現を指定できます。 <code>([a-zA-Z0-9\s_\.\-\\(\):])+(.doc .docx .pdf)\$</code>

詳細ソースプロパティ	説明
ファイル日付	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。 - 以下。指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。 - 等しい。指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。 - 本日までの日数。指定した現在の日付（本日）までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 <p>たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、【本日までの日数】を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。</p>
時間帯	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。【ファイル日付】オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。</p>
ファイルサイズ	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きい等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします。
ファイルのリストを含むファイルパス	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを含むファイルパスを指定するには、このオプションを選択します。ファイルには、ファイル名のカンマ区切りリストを必ず入力してください。</p>
ファイルリスト	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを指定し、ファイル名のコンマ区切りリストを入力するには、このオプションを選択します。</p>
重複するファイルをスキップ	<p>重複したファイルは転送しないでください。ファイル取り込みタスクによって、同じ名前とサイズのファイルが転送済みである場合、タスクはファイルを再度転送せずにジョブログでファイルを重複とマークします。このオプションが選択されていない場合、タスクはすべてのファイルを転送します。</p>
ファイルの安定性を確認	<p>ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。</p>
安定性確認間隔	<p>これは、【ファイルの安定性を確認】オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>例えば、安定性確認時間が 15 秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15 秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。</p> <p>この間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。デフォルトは 10 秒です。</p>

詳細ソースプロパティ	説明
バッチサイズ	<p>ファイル取り込みタスクが 1 回のバッチで転送できるファイル数。 デフォルトは 5 です。</p> <p>最大バッチサイズは、次の条件に基づいて異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - タスクが中間ステージングなしでソースからターゲットにファイルを転送する場合、タスクが 1 回のバッチで転送できるファイルの最大数は 8000 です。 - タスクが中間ステージングを使用してソースからターゲットにファイルを転送する場合、タスクが 1 回のバッチで転送できる最大ファイル数は 20 です。 - タスクが任意のソースから Snowflake または Databricks Delta ターゲットにファイルを転送する場合、タスクがバッチで転送できるファイルの最大数は 1000 です。 <p>注: Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 から Azure SQL Data Warehouse にファイルを転送する場合、タスクは中間ステージングなしでファイルを転送します。</p>
ブロックサイズ(バイト)	<p>大きなファイルを指定された小さなブロックサイズに分割します。サイズの大きいファイルを読み取る場合は、ファイルを小さな部分に分割し、同時接続を設定して、データを並列処理するために必要な数のスレッドを生成してください。</p> <p>デフォルトは、8388608 バイト (8MB) です。</p>
ファイルのピックアップ後	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - ソースディレクトリからファイルを削除します。 - ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル取り込みタスクがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。次のいずれかの変数を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - (\$date) - (\$time) - (\$timestamp) - (\$runId) - 別の場所にファイルをアーカイブします。ファイルシステムからの絶対パスまたは相対パスでアーカイブディレクトリを指定する必要があります。アーカイブディレクトリ内のソースファイルシステムからのサブフォルダ構造を維持できます。 <p>例えば、/root/archive がアーカイブディレクトリ、/root/test がソースディレクトリ、sub1 と sub2 がソースディレクトリ内のディレクトリで、サブフォルダからファイルを含めるように選択した場合、アーカイブディレクトリのフォルダ構造は /root/archive/sub1、/root/archive/sub2 になります。</p>

Microsoft Azure Data Lake Store Gen1 V3 ソースのプロパティ

Microsoft Azure Data Lake Store Gen1 V3 ソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【ソース】タブにソースのオプションを入力する必要があります。オプションは、タスクに選択したファイルのピックアップ方法によって異なります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターン、フォルダ、およびテーブルのパラメータを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」\(ページ 78\)](#)を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

詳細ソースプロパティ	説明
ファイルピックアップ	<p>ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - パターン別。ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。 - ファイルリスト別。ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	<p>ファイルの転送元となる Microsoft Azure Data Lake Store ディレクトリ。デフォルト値は接続で指定されたコンテナパスです。</p> <p>ソースファイルシステムへの相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたソースディレクトリの相対パスです。</p>
パラメータの追加	<p>式を作成し、ソースディレクトリパラメータとして追加します。詳細については、「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43)を参照してください。</p>
サブフォルダのファイルを含む	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。フォルダパスにあるサブフォルダからファイルを転送します。</p>
ファイルパターン	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。パターンは、正規表現またはワイルドカード文字を使用したパターンにすることができます。</p> <p>次のワイルドカード文字を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。 - クエスチョンマーク (?) 単一の文字を表す。 <p>例えば、次のような正規表現を指定できます。</p> <pre>([a-zA-Z0-9\s_\\.\\.\(\):])+(.doc .docx .pdf)\$</pre>
ファイル日付	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。 - 以下。指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。 - 等しい。指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。 - 本日までの日数。指定した現在の日付 (本日) までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 <p>たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、【本日までの日数】を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。</p>
時間帯	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。【ファイル日付】オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。</p>

詳細ソースプロパティ	説明
ファイルサイズ	<p>これは【ファイルピックアップ】が【パターン別】の場合に適用されます。ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか1つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きいか等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします
ファイルのリストを含むファイルパス	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを含むファイルパスを指定するには、このオプションを選択します。ファイルには、ファイル名のカンマ区切りリストを必ず入力してください。</p>
ファイルリスト	<p>これは【ファイルピックアップ】が【ファイルリスト別】の場合に適用されます。取得するファイルのリストを指定し、ファイル名のコンマ区切りリストを入力するには、このオプションを選択します。</p>
重複したファイルをスキップ	<p>重複したファイルをスキップするかどうかを示します。このオプションを選択した場合、ファイル取り込みタスクは、別のファイルと同じ名前とサイズのファイルは転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。このオプションを選択しない場合、タスクは、名前と作成日が重複しているファイルも含め、すべてのファイルを転送します。</p>
ファイルの安定性を確認	<p>ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。</p>
安定性確認間隔	<p>これは、【ファイルの安定性を確認】オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>例えば、安定性確認時間が 15 秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15 秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。</p> <p>この間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。デフォルトは 10 秒です。</p>
バッチサイズ	<p>ファイル取り込みタスクが1回のバッチで転送できるファイル数。</p> <p>デフォルトは 5 です。</p> <p>最大バッチサイズは、次の条件に基づいて異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 中間ステージングサーバーなしでファイルをソースからターゲットに転送する場合、タスクが1回のバッチで転送できるファイルの最大数は 8000 です。 - 中間ステージングサーバーを使用してファイルをソースからターゲットに転送する場合、タスクが1回のバッチで転送できるファイルの最大数は 20 です。 - 任意のソースから Snowflake ターゲットにファイルを転送する場合、タスクが1回のバッチで転送できるファイルの最大数は 1000 です。 <p>注: Azure Blob Storage から Azure SQL Data Warehouse および Snowflake にファイルを転送する場合、タスクは中間ステージングサーバーを使用せずにファイルを転送します。</p>

Microsoft Fabric OneLake ソースプロパティ

Microsoft Fabric OneLake ソースを使用したファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの **[ソース]** タブにソースのオプションを入力する必要があります。

注: 一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して、ファイル名のパターンとフォルダを上書きし、ソース用に独自の変数を定義できます。詳細については、[「job リソース」 \(ページ 78\)](#)を参照してください。

以下の表に、ソースのオプションを示します。

オプション	説明
ファイルピックアップ	ファイル取り込みタスクは、次のファイルピックアップ方法をサポートします。 <ul style="list-style-type: none">- パターン別。 ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。- ファイルリスト別。 ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。
ソースディレクトリ	ファイルの転送元のディレクトリです。 ソースファイルシステムへの相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたソースディレクトリの相対パスです。 注: ファイル取り込みジョブは、ソースディレクトリに空のファイルがあると失敗します。ただし、サイズフィルタオプションを使用すると、0KB のファイルを選択しないようにすることができます。
パラメータの追加	式を作成し、 ソースディレクトリ パラメータとして追加します。詳細については、 「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43) を参照してください。
サブフォルダのファイルを含む	定義したソースディレクトリにあるすべてのサブフォルダからファイルを転送します。
ファイルパターン	転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。パターンは、正規表現またはワイルドカード文字を使用したパターンにすることができます。 次のワイルドカード文字を使用できます。 <ul style="list-style-type: none">- アスタリスク (*) は任意の数の文字を表します。- クエスチョンマーク (?) 単一の文字を表す。 例えば、次のような正規表現を指定できます。 <code>([a-zA-Z0-9\s_\\.\-\\(\):])+(.doc .docx .pdf)\$</code>
ファイル日付	転送するファイルをフィルタする日付と時刻の式。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- 以上。 指定の日時以降に変更されたファイルをフィルタします。 日付を指定するには、カレンダーをクリックします。時刻を指定するには、時計をクリックします。- 以下。 指定した日付および時刻以前に変更されたファイルをフィルタします。- 等しい。 指定した日付および時刻に変更されたファイルをフィルタします。 カレンダーをクリックして日付を選択し、時計をクリックして時刻を選択します。- 本日までの日数。 指定した現在の日付 (本日) までの日数以内に変更されたファイルをフィルタします。日数を入力します。現在の日付の計算は 00:00 から開始されます。 たとえば、ファイル取り込みタスクを毎週実行するようにスケジュールし、前の週に変更されたファイルをフィルタする場合、 [本日までの日数] を 7 に設定します。タスクは、7 日前から実行日までの日付のファイルをすべてピックアップします。

オプション	説明
時間帯	【ファイル日付】 オプションを選択した場合、ファイルが配置されている場所のタイムゾーンを入力します。
ファイルサイズ	<p>ファイルサイズに基づいて転送するファイルをフィルタします。ファイルサイズを入力し、ファイルサイズの単位とフィルタオプションを選択します。</p> <p>以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 以上。指定したサイズよりも大きいか等しいファイルをフィルタします。 - 以下。指定したサイズ以下のファイルをフィルタします。 - 等しい。指定したサイズのファイルをフィルタします
重複したファイルをスキップ	<p>重複したファイルをスキップするかどうかを示します。このオプションを選択した場合、ファイル取り込みタスクは、別のファイルと同じ名前とサイズのファイルは転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。このオプションを選択しない場合、タスクは、名前と作成日が重複しているファイルも含め、すべてのファイルを転送します。</p>
ファイルの安定性を確認	<p>ファイル取り込みタスクがファイルをピックアップする前に、ファイルが安定していることを確認するかどうかを示します。タスクは、現在の実行で検出した不安定なファイルをスキップします。</p>
安定性確認間隔	<p>これは、【ファイルの安定性を確認】 オプションを有効にした場合に適用されます。ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>例えば、安定性確認時間が 15 秒の場合、ファイル取り込みタスクは、定義されたファイルパターンに一致するソースフォルダ内のすべてのファイルを検出し、15 秒間待機してから、安定したファイルのみを処理します。</p> <p>この間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。デフォルトは 10 秒です。</p>
バッチサイズ	<p>ファイル取り込みタスクが 1 回のバッチで転送できるファイル数。</p> <p>デフォルトは 5 です。</p> <p>一度に転送できるテーブルの最大数は 20 です。</p>
ファイルのピックアップ後	<p>ファイル転送後にソースファイルに対して実行するアクションを決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - ソースディレクトリからファイルを削除します。 - ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル取り込みタスクがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。次のいずれかの変数を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - (\$date) - (\$time) - (\$timestamp) - (\$runId) - 別の場所にファイルをアーカイブします。ファイルシステムからの絶対パスまたは相対パスでアーカイブディレクトリを指定する必要があります。アーカイブディレクトリは、ソースファイルシステムのサブフォルダ構造を維持するのに役立ちます。 <p>例えば、lakehouse/Files/archive がアーカイブディレクトリ、lakehouse/Files/test がソースディレクトリ、sub1 と sub2 がソースディレクトリ内のディレクトリで、サブフォルダのファイルを含めるように選択した場合、アーカイブディレクトリのフォルダ構造は lakehouse/Files/archive/sub1、lakehouse/Files/archive/sub2 になります。</p>

ソースとターゲットのパラメータ

ファイル取り込みタスクが読み取りまたは書き込みを行うソースとターゲットのファイル名パターン、フォルダ、およびテーブルパラメータを設定できます。

次のタイプの変数のいずれかを使用して、パラメータを設定できます。

- システム変数
- ユーザー定義変数

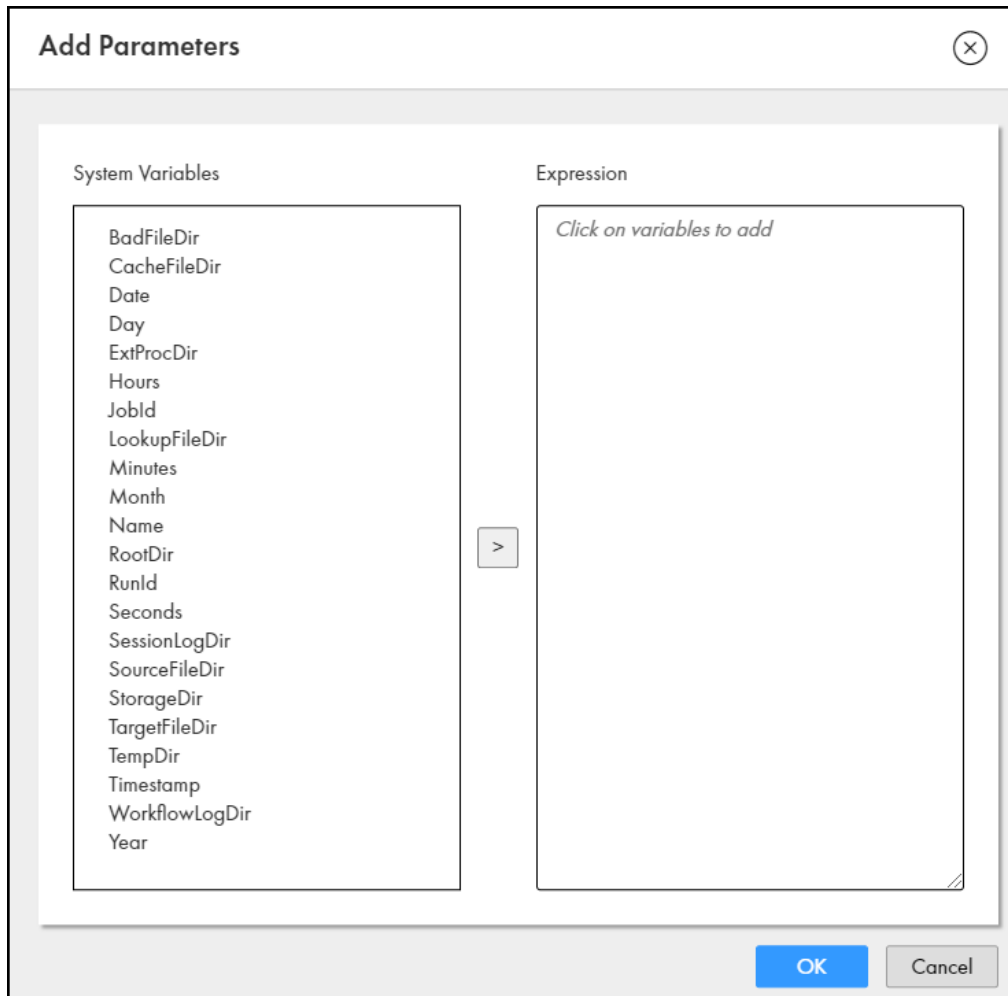
注: ユーザーインターフェースからユーザー定義変数を使用してタスクを実行することはできません。ユーザー定義変数の値は、一括取り込みファイル REST API の job リソースを使用して渡す必要があります。詳細については、「[「job リソース」 \(ページ 78\)](#)」を参照してください。

システム変数を使用したソースパラメータとターゲットパラメータの追加


システム変数を使用してパラメータをタスクのソースとターゲットに追加します。

1. タスクウィザードの **【ソース】** または **【ターゲット】** タブの **【ソースディレクトリ】** または **【ターゲットディレクトリ】** などの入力フィールドの横の **【パラメータの追加】** をクリックします。

【パラメータの追加】 ウィンドウが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Add Parameters" with a close button (X) in the top right corner. The dialog is divided into two main sections: "System Variables" on the left and "Expression" on the right. The "System Variables" section contains a list of variables: BadFileDir, CacheFileDir, Date, Day, ExtProcDir, Hours, JobId, LookupFileDir, Minutes, Month, Name, RootDir, RunId, Seconds, SessionLogDir, SourceFileDir, StorageDir, TargetFileDir, TempDir, Timestamp, WorkflowLogDir, and Year. A right-pointing arrow button is located between the two sections. The "Expression" section contains the text "Click on variables to add". At the bottom of the dialog are two buttons: "OK" and "Cancel".

2. **[システム変数]** カラムから必要な変数を選択し、 をクリックします。選択されたシステム変数が **[式]** カラムに表示されます。このプロシージャを繰り返して、複数のシステム変数を選択します。

注: タスク内でシステム変数を使用する場合は、`${systemvariablename}` のようにフォーマットする必要があります。

以下の表に、システム変数を示します。

システム変数	説明	式
BadFileDir *	リジェクトファイルのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " ,	<code>\${PMBadFileDir}</code>
CacheFileDir *	キャッシュファイルの場所。	<code>\${PMCacheDir}</code>
Date **	ISO (yyyy-MM-dd) 形式の現在の日付。	<code>\${system.date}</code>
Day **	曜日	<code>\${system.day}</code>
ExtProcDir *	外部プロシージャのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " ,	<code>\${PMExtProcDir}</code>
Hours **	時間	<code>\${system.hours}</code>
JobId	現在のジョブの ID (またはジョブ番号)。	<code>\${system.jobid}</code>
LookupFileDir *	ルックアップファイルのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " ,	<code>\${PMLookupFileDir}</code>
Minutes **	分	<code>\${system.minutes}</code>
Month **	月 (数値)	<code>\${system.month}</code>
Name	現在のプロジェクトの名前。	<code>\${system.name}</code>
RootDir *	ノードによるルートディレクトリへのアクセス性。これは他のサービスプロセス変数のルートディレクトリです。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " ,	<code>\${PMRootDir}</code>

システム変数	説明	式
RunId	ジョブが実行されたときのID。	\${system.runid}
Seconds **	秒	\${system.seconds}
SessionLogDir *	セッションログのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " ,	\${\$PMSessionLogDir}
SourceFileDir *	ソースファイルのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " ,	\${\$PMSourceFileDir}
StorageDir *	実行時ファイルのディレクトリ。ワークフローリカバリファイルは、PowerCenter 統合サービスプロパティで設定された \$PMStorageDir に保存されます。セッションリカバリファイルは、オペレーティングシステムプロファイルで設定された \$PMStorageDir に保存されます。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " ,	\${\$PMStorageDir}
TargetFileDir *	ターゲットファイルのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " ,	\${\$PMTargetFileDir}
TempDir *	一時ファイルのディレクトリ。次の特殊文字は使用できません。 * ? < > " ,	\${\$PMTempDir}
Timestamp **	ISO (yyyy-MM-dd HH:mm:ss) 形式の現在の日付と時刻。	\${system.timestamp}
WorkflowLogDir *	ワークフローログファイルの場所です。	\${\$PMWorkflowLogDir}
Year **	年	\${system.year}
* 値はデータ統合サーバーから取得されます。 ** タイムゾーンは Secure Agent のタイムゾーンです。		

3. **[OK]** をクリックします。

式が入力フィールドに表示されます。

ユーザー定義変数を使用したソースパラメータとターゲットパラメータの追加

ユーザー定義変数を使用してパラメータを追加し、ソースとターゲットを追加します。

1. タスクウィザードの【ソース】または【ターゲット】タブで、【ソースディレクトリ】または【ターゲットディレクトリ】などの入力フィールドをクリックし、変数を入力します。変数は`${systemvariablename}`のようにフォーマットする必要があります。



2. 【OK】をクリックします。
式が入力フィールドに表示されます。

重複するファイルをスキップ

ファイル取り込みタスクを作成するときに、重複するファイルのスキップを選択できます。【**重複するファイルをスキップ**】オプションを有効にすると、ファイル取り込みタスクは、以前に転送されたファイルと同じ名前とサイズのファイルを転送しません。ファイル取り込みタスクはジョブログでこれらのファイルを重複とマークします。

スキップされた重複ファイルに関する情報は、次の場所に保存できます。

Informatica Intelligent Cloud Services (IICS)

IICS に保存されている、スキップされた重複ファイルに関する情報は、ファイル取り込みジョブが消去されるまで保持されます。保持期間は、ジョブログサービス (JLS) の消去ポリシーに基づきます。この情報が消去されると、ファイル取り込みタスクは、重複ファイルも含めてファイルを転送します。

スキップされた重複ファイルに関する情報を Secure Agent から IICS に転送するには、Secure Agent で **agent-dedup-repository** プロパティを `false` に設定します。Secure Agent は、スキップされた重複ファイルを IICS に正常に転送した後、それに関する情報を削除します。**agent-dedup-repository** プロパティは Administrator で設定できます。詳細については、[入門ガイド](#)を参照してください。

デフォルトでは、スキップされた重複ファイルに関する情報は、Informatica Intelligent Cloud Services に保存されます。

Secure Agent

スキップされた重複ファイルに関する情報は、Secure Agent に保存できます。情報は無期限に保持され、Secure Agent の空きディスク容量に左右されます。現在、Secure Agent では、この情報に適用される保持ポリシーはありません。この情報が保存されるフォルダは設定可能で、Secure Agent グループ内のエージェント間で共有できます。**agent-dedup-repository** プロパティは Administrator で設定できます。詳細については、[入門ガイド](#)を参照してください。

スキップされた重複ファイルの情報を IICS から Secure Agent に転送するには、Secure Agent で **agent-dedup-repository** プロパティを `true` に設定します。スキップされた重複ファイルに関する情報を保存する Secure Agent 内のパスは、Administrator で **mi-dedup-snapshot-dir** プロパティを使用して設定できます。詳細については、[入門ガイド](#)を参照してください。

ファイル取り込みタスクは、後続のファイル取り込みジョブを実行するときに、スキップされた重複ファイルに関する情報を IICS から Secure Agent に転送します。スキップされた重複ファイルの情報は、その情報が Secure Agent に正常に転送された後、IICS から削除されます。

ターゲットの設定

ターゲットを設定するには、ファイルの転送先の接続タイプと接続を選択してから、ターゲットのオプションを設定します。

1. **【ターゲット】** ページで、接続タイプを選択します。

ファイル取り込みタスクは、次のターゲット接続タイプをサポートします。

- ローカルフォルダ
- Advanced FTP V2
- Advanced FTPS V2
- Advanced SFTP V2
- Amazon S3 V2
- Amazon Redshift V2
- Cloud 統合ハブ
- Google BigQuery V2
- Google Cloud Storage V2
- Hadoop Files V2
- Microsoft Azure Blob Storage V3
- Microsoft Azure Data Lake Store Gen2
- Microsoft Azure Data Lake Store V3
- Microsoft Azure Synapse SQL
- Microsoft Fabric OneLake
- Snowflake Data Cloud
- Databricks Delta

2. 接続を選択します。

3. 選択したターゲット接続に基づいて、ターゲットのオプションを入力します。

タスクウィザードの**【ターゲット】** タブに表示されるオプションは、選択するターゲット接続のタイプによって異なります。

4. **【次へ】** をクリックします。

【スケジュール】 タブが表示されます。

Advanced FTP V2 ターゲットのプロパティ

Advanced FTP V2 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの**【ターゲット】** タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
ターゲットディレクトリ	ファイル転送先のディレクトリです。 デフォルト値は接続で指定されたターゲットディレクトリです。 相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたターゲットディレクトリの相対パスです。
パラメータの追加	式を作成し、 ターゲットディレクトリ パラメータとして追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」(ページ 43)を参照してください。
ファイルが存在する場合	ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがすでにある場合に、ファイルの処理を決定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- 上書き。既存のファイルを上書きします。- タイムスタンプを付加。既存のファイルを保持し、転送されるファイルの名前にタイムスタンプを追加します。- エラー。ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがある場合、ジョブは失敗します。
転送モード	ファイル転送モード。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- 自動。ファイル取り込みにより、転送モードが決定されます。- ASCII。- バイナリ。 注: ネットワークの中断によりバイナリファイル転送が中断された場合、ファイルイベントには中断ステータスが表示されます。ファイル取り込みジョブを再度実行して、中断されたファイルの転送を再開します。
中間ファイルの作成	ファイルがターゲットの場所に完全に転送されるまでの中間ファイルを作成します。 例えば、file.txt という名前のファイルをソースからターゲットに転送すると、ファイルが完全に転送されるまで、ターゲットの場所に file.txt_644a1f88 という名前の中間ファイルが表示されます。

Advanced FTPS V2 ターゲットのプロパティ

Advanced FTPS V2 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【**ターゲット**】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
ターゲットディレクトリ	ファイル転送先のディレクトリです。 デフォルト値は接続で指定されたターゲットディレクトリです。 相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたターゲットディレクトリの相対パスです。
パラメータの追加	式を作成し、 ターゲットディレクトリ パラメータとして追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」(ページ 43)を参照してください。

オプション	説明
ファイルが存在する場合	<p>ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがすでにある場合に、ファイルの処理を決定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 上書き。既存のファイルを上書きします。 - タイムスタンプを付加。既存のファイルを保持し、転送されるファイルの名前にタイムスタンプを追加します。 - エラー。ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがある場合、ジョブは失敗します。
転送モード	<p>ファイル転送モード。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自動。ファイル取り込みにより、転送モードが決定されます。 - ASCII。 - バイナリ。 <p>注: ネットワークの中断によりバイナリファイル転送が中断された場合、ファイルイベントには中断ステータスが表示されます。ファイル取り込みジョブを再度実行して、中断されたファイルの転送を再開します。</p>
中間ファイルの作成	<p>ファイルがターゲットの場所に完全に転送されるまでの中間ファイルを作成します。</p> <p>例えば、file.txt という名前のファイルをソースからターゲットに転送すると、ファイルが完全に転送されるまで、ターゲットの場所に file.txt_644a1f88 という名前の中間ファイルが表示されます。</p>

Advanced SFTP V2 ターゲットのプロパティ

Advanced FTPS V2 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【**ターゲット**】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
ターゲットディレクトリ	<p>ファイル転送先のディレクトリです。</p> <p>デフォルト値は接続で指定されたターゲットディレクトリです。</p> <p>相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたターゲットディレクトリの相対パスです。</p>
パラメータの追加	<p>式を作成し、ターゲットディレクトリパラメータとして追加します。詳細については、「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43) を参照してください。</p>
ファイルが存在する場合	<p>ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがすでにある場合に、ファイルの処理を決定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 上書き。既存のファイルを上書きします。 - タイムスタンプを付加。既存のファイルを保持し、転送されるファイルの名前にタイムスタンプを追加します。 - エラー。ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがある場合、ジョブは失敗します。
中間ファイルの作成	<p>ファイルがターゲットの場所に完全に転送されるまでの中間ファイルを作成します。</p> <p>例えば、file.txt という名前のファイルをソースからターゲットに転送すると、ファイルが完全に転送されるまで、ターゲットの場所に file.txt_644a1f88 という名前の中間ファイルが表示されます。</p>

Amazon Redshift V2 ターゲットのプロパティ

Amazon Redshift V2 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【ターゲット】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

Amazon Redshift V2 接続には、Copy コマンド方式を実行するために選択する必要がある次のオプションが用意されています。

- **Amazon Redshift コマンドのプロパティを定義**このオプションを選択すると、Amazon Redshift copy コマンドのプロパティを定義できます。
- **カスタムの Redshift COPY コマンドを入力**ファイル取り込みタスクが使用するカスタム Amazon Redshift copy コマンドを提供するには、このオプションを選択します。

以下の表に、【Redshift COPY コマンドのプロパティを定義】オプションを選択した場合にファイル取り込みタスクで設定できるターゲット詳細オプションの説明を示します。

オプション	説明
ターゲットテーブル名	ファイルがロードされる Amazon Redshift 内のテーブルの名前。
スキーマ	Amazon Redshift のスキーマ名。 デフォルト値はターゲット接続の確立中に使用されるスキーマです。
パラメータの追加	式を作成して、スキーマパラメータとターゲットテーブル名パラメータとして追加します。詳細については、 「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43)を参照してください。
ターゲットテーブルの切り詰め	テーブルにデータをロードする前に、ターゲットテーブルを切り詰めます。
ターゲットテーブルの分析	Analyze コマンドはデータベース内のテーブル内容に関する統計情報を収集し、クエリの最も効率的な実行計画を決定します。 注: 【並行バッチ】の値が 1 より大きい場合であっても、この操作はすべてのバッチに対して実行されます。

オプション	説明
ターゲットテーブルのクリーンアップ	<p>ターゲットテーブルのクリーンアップを選択すると、ディスク領域を回復し、指定されたテーブルの行をソートできます。</p> <p>以下のリカバリオプションのいずれか 1 つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - フル。指定したテーブルをソートし、前回の更新操作や削除操作で削除のマークが付けられた行によって使用されたディスク領域を回復します。 - ソート。削除した行から解放された領域を回復せずに、指定したテーブルをソートします。 - 削除。前回の更新操作や削除操作で削除のマークが付けられた行によって使用されたディスク領域を回復し、テーブルを圧縮して使用領域を解放します。 <p>注: 【並行バッチ】 の値が 1 より大きい場合であっても、この操作はすべてのバッチに対して実行されます。</p>
ファイル形式およびコピーオプション	<p>データをコピーする場合の形式を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - DELIMITER。入力ファイル内のフィールドを区切るための単一の ASCII 文字。パイプ ()、チルダ (~)、タブ (\t) などの文字を使用できます。指定した区切り文字をデータに含めることはできません。 - QUOTE。nvarchar 文字の識別とスキップに使用する引用文字を指定します。 - COMPUPDATE。現在の圧縮エンコーディングをオーバーライドし、空のテーブルに圧縮を適用します。 - AWS_IAM_ROLE。Amazon EC2 システムで実行する Amazon Redshift ロールリソース名を指定します。 - IGNOREHEADER。ヘッダーを無視する場合に選択します。例えば、IGNOREHEADER 0 を指定した場合、タスクは行 0 からデータを処理します。 - DATEFORMAT。日付フィールドの形式を指定します。 - TIMEFORMAT。時間フィールドの形式を指定します。

以下の表に、**【カスタムの Redshift COPY コマンドを入力】** オプションを選択した場合にファイル取り込みタスクで設定できるターゲット詳細オプションの説明を示します。

プロパティ	説明
COPY コマンド	<p>Amazon Redshift COPY コマンドは、データをテーブル内の既存の行に付加します。</p> <p>Amazon S3 ステージングディレクトリと Amazon Redshift ターゲットが異なるリージョンに属している場合は、COPY コマンドでリージョンを指定する必要があります。</p> <p>以下に例を示します。</p> <pre>copy public.messages from '{{FROM-S3PATH}}' credentials 'aws_access_key_id={{ACCESS-KEY-ID}};aws_secret_access_key={{SECRET-ACCESS-KEY-ID}}' MAXERROR 0 REGION '' QUOTE '' DELIMITER ',' NULL '' CSV;</pre> <p>ここで、public にはスキーマ、messages にはテーブル名を指定します。</p> <p>COPY コマンドの詳細については、AWS のマニュアルを参照してください。</p>

以下の表に、Copy コマンド方式のいずれかを選択した後で、ファイル取り込みタスクで設定できる Amazon Redshift のターゲット詳細オプションの説明を示します。

プロパティ	説明
Pre SQL	ファイル取り込みタスクが COPY コマンドを実行する前に実行する SQL コマンド。 注: 【並行バッチ】 の値が 1 より大きい場合であっても、この操作はすべてのバッチに対して実行されます。
Post SQL	ファイル取り込みタスクが COPY コマンドを実行する前に実行する SQL コマンド。 注: 【並行バッチ】 の値が 1 より大きい場合であっても、この操作はすべてのバッチに対して実行されます。
S3 ステージングディレクトリ	Amazon S3 ステージングディレクトリを指定します。 Amazon S3 ステージングディレクトリは、<bucket_name/folder_name>の形式で指定する必要があります。 ステージングディレクトリは、ファイル取り込みタスクの実行後に削除されます。
中間ステージングなしで Redshift にアップロード	中間ステージングを追加せずに、Amazon S3 ソースディレクトリから Amazon Redshift に Amazon S3 のファイルを直接アップロードします。 このオプションを選択する場合は、Amazon S3 バケットと Amazon S3 ステージングディレクトリが同じリージョンに属していることを確認します。 このオプションを選択しない場合は、Amazon S3 ステージングディレクトリと Amazon Redshift ターゲットが同じリージョンに属していることを確認します。
ファイル圧縮*	ファイルがターゲットディレクトリに転送される前に圧縮されるかどうかを決定します。次のいずれかのオプションを選択します。 - なし。ファイルを圧縮しません。 - GZIP/GZIP 圧縮を使用してファイルを圧縮します。
ファイル暗号化タイプ*	ファイル転送中に使用する Amazon S3 ファイル暗号化のタイプです。次のいずれかのオプションを選択します。 - なし。ファイルは転送中に暗号化されません。 - S3 サーバーサイド暗号化。Amazon S3 は、AWS によって管理された暗号化キーを使用してファイルを暗号化します。 - S3 クライアントサイド暗号化。無制限のポリシーが AgentJVM に対して実装されていること、および接続のマスタ対称キーが設定されていることを確認します。 注: Amazon S3 がソースの場合、クライアントサイド暗号化はタスクに適用されません。
S3 高速転送*	S3 バケットで Amazon S3 の転送高速化を使用するかどうかを選択します。転送高速化を使用するには、高速化転送をバケットで有効にする必要があります。次のいずれかのオプションを選択します。 - 無効。Amazon S3 の転送高速化を使用しないでください。 - 高速。Amazon S3 の転送高速化を使用します。 - デュアルスタック高速。デュアルスタックエンドポイントで Amazon S3 の転送高速化を使用します。
最小アップロードパートサイズ*	複数の独立したパートセットとしてサイズの大きなファイルをアップロードする場合の最小アップロードパートサイズ。このオプションを使用して、ファイルのロードを Amazon S3 に合わせます。
マルチパートアップロードしきい値*	複数のパートにオブジェクトを同時にアップロードするタイミングを決定するメガバイト単位のマルチパートダウンロードの最小しきい値。
*AmazonS3 から Amazon Redshift V2 にデータを読み取る場合は適用されません。	

Amazon S3 V2 ターゲットのプロパティ

Amazon S3 V2 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【**ターゲット**】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
フォルダパス	バケット名など、ファイルの転送先である Amazon S3 フォルダです。デフォルト値は接続で指定されたフォルダパスです。 相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたターゲットディレクトリの相対パスです。
パラメータの追加	式を作成し、 フォルダパス パラメータとして追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」(ページ 43)を参照してください。
ファイル圧縮	ファイルがターゲットディレクトリに転送される前に圧縮されるかどうかを決定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- なし。ファイルは圧縮されません。- GZIP ファイルは GZIP 圧縮を使用して圧縮されます。
ファイル暗号化タイプ	ファイル転送中に使用する Amazon S3 ファイル暗号化のタイプです。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- なし。ファイルは転送中に暗号化されません。- S3 サーバーサイド暗号化。Amazon S3 は、AWS によって管理された暗号化キーを使用してファイルを暗号化します。- S3 クライアントサイド暗号化。無制限のポリシーが AgentJVM に対して実装されていること、および接続のマスタ対称キーが設定されていることを確認します。
ファイルが存在する場合	ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがすでにある場合に、ファイルの処理を決定します。以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。 <ul style="list-style-type: none">- 上書き。既存のファイルを上書きします。- タイムスタンプを付加。既存のファイルを保持し、転送されるファイルの名前にタイムスタンプを追加します。
S3 高速化転送	S3 バケットで Amazon S3 の転送高速化を使用するかどうかを選択します。転送高速化を使用するには、高速化転送をバケットで有効にする必要があります。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- 無効。Amazon S3 の転送高速化を使用しないでください。- 高速。Amazon S3 の転送高速化を使用します。- デュアルスタック高速。デュアルスタックエンドポイントで Amazon S3 の転送高速化を使用します。
最小アップロードパートサイズ	複数の独立したパートセットとしてサイズの大きなファイルをアップロードする場合の最小アップロードパートサイズ。このオプションを使用して、ファイルのロードを Amazon S3 に合わせます。
マルチパートアップロードしきい値	複数のパートにオブジェクトを同時にアップロードするタイミングを決定するメガバイト単位のマルチパートダウンロードの最小しきい値。

Cloud 統合ハブのターゲットプロパティ

Cloud 統合ハブをターゲットとして使用して、ファイル取り込みタスクを定義する場合は、ファイルを転送するための接続と接続タイプを選択します。それ以外に設定するターゲットオプションはありません。

注:

- ソースとターゲットの両方に Cloud 統合ハブを使用して、ファイル取り込みタスクを設定することはできません。
- ソースまたはターゲットに Cloud 統合ハブを使用してファイル取り込みタスクを手動で実行することはできません。Cloud 統合ハブサービスからファイル取り込みタスクを実行する必要があります。Cloud 統合ハブサービスからタスクを実行する方法の詳細については、*Cloud 統合ハブ*のユーザーガイドを参照してください。

Databricks Delta ターゲットのプロパティ

Databricks Delta ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【**ターゲット**】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

注: Amazon S3 V2 ソースおよび Microsoft Azure Data Lake Store Gen2 ソースから Databricks Delta ターゲットに転送できるのは Parquet ファイルのみであり、すべてのファイルに同じメタデータが必要です。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
データベース	必須。ターゲットテーブルを含む Databricks Delta Lake のデータベースの名前。 相対値を使用して、接続で渡されるデータベース値を選択できます。相対値を使用するには、省略記号 (...) を入力します。
パラメータの追加	式を作成して、 データベースパラメータ と テーブル名 パラメータとして追加します。詳細については、 「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43)を参照してください。
テーブル名	必須。Databricks Delta の既存のテーブルの名前。
テーブルが存在する場合	テーブル名がターゲットデータベース内の既存のテーブルの名前と一致する場合に、Secure Agent がテーブルに対して実行する必要のあるアクションを決定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- 上書き- 付加 デフォルトは【 上書き 】です。

注: 次のエラーでジョブが失敗した場合、詳細についてはクラスタログを参照してください。

"[ERROR] Job execution failed. State : JOB_FAILED ; State Message :"

Google BigQuery V2 ターゲットのプロパティ

。

Google BigQuery V2 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【**ターゲット**】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

注: Google BigQuery V2 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合、ソースとして設定できるのは Google Cloud Storage V2 だけです。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
ターゲットテーブル名	Google BigQuery ターゲットテーブル名を指定します。
データセット ID	Google BigQuery データセット名を指定します。
パラメータの追加	式を作成して、 ターゲットテーブル名 パラメータと データセット ID パラメータとして追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」(ページ 43)を参照してください。
フィールド区切り文字	Google BigQuery V2 コネクタで.csv ファイルのフィールドのフィールド区切り文字を許可する必要があるかどうかを示します。
文字列の引用符	Google BigQuery にデータを書き込むときにスキップする引用符を指定します。Google BigQuery にデータを書き込む際に、指定した引用符がソーステーブルに含まれていると、タスクは失敗します。引用符の値をソーステーブルに存在しない値に変更します。
引用符付きの改行の許可	Google BigQuery V2 コネクタが.csv ファイルで改行文字を含む引用符で囲まれたデータセクションを許可する必要があるかどうかを示します。
ジャグ行の許可	Google BigQuery V2 コネクタで.csv ファイルの後続フィールドのない行を許可する必要があるかどうかを示します。
先頭行のスキップ	Google BigQuery V2 コネクタがデータのロード時にスキップするソースファイルの最上位行の数を指定します。 デフォルトは 0 です。
ファイルのデータ形式	ソースファイルのデータ形式を指定します。以下のいずれかのデータ形式を選択できます。 <ul style="list-style-type: none">- JSON(改行区切り)- CSV- Avro- Parquet- ORC
書き込み処理	ターゲットテーブルがすでに存在する場合に、Google BigQuery V2 コネクタがバルクモードでデータを書き込む方法を指定します。 次の値から選択することができます。 <ul style="list-style-type: none">- 付加書き込み。ターゲットテーブルが存在する場合、Google BigQuery V2 コネクタはデータをテーブル内の既存のデータに追加します。- 切り詰め書き込み。ターゲットテーブルが存在する場合、Google BigQuery V2 コネクタはテーブル内の既存のデータを上書きします。- 空の書き込み。ターゲットテーブルが存在し、データが含まれている場合、Google BigQuery V2 コネクタはエラーを表示し、データをターゲットに書き込みません。Google BigQuery V2 コネクタは、ターゲットテーブルにデータが含まれていない場合にのみ、データをターゲットに書き込みます。

Google Cloud Storage V2 ターゲットのプロパティ

Google Cloud Storage V2 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【**ターゲット**】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
フォルダパス	ファイルが転送される Google Cloud Storage のパス。バケット名、またはバケット名とフォルダ名のいずれかを入力できます。 例えば、<バケット名>または<バケット名>/<フォルダ名>と入力します。 注: パスの先頭に、1 つのスラッシュ (/) を使用しないでください。 相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたバケットの相対パスです。
パラメータの追加	式を作成し、 フォルダパス パラメータとして追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」(ページ 43)を参照してください。
ファイル圧縮	ファイルがターゲットディレクトリに転送される前に圧縮されるかどうかを決定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- なし。ファイルを圧縮しません。- GZIP/GZIP 圧縮形式を使用してファイルを圧縮します。
ファイルが存在する場合	同じ名前のファイルがターゲットディレクトリに存在する場合に、Secure Agent がファイルに対して実行する必要があるアクションを決定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- 上書き- タイムスタンプを付加

Hadoop Files V2 ターゲットのプロパティ

Hadoop Files V2 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの「**ターゲット**」タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
ターゲットディレクトリ	ファイル転送先のディレクトリです。
パラメータの追加	式を作成し、 ターゲットディレクトリ パラメータとして追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」(ページ 43)を参照してください。

ローカルフォルダターゲットのプロパティ

ローカルフォルダターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの「**ターゲット**」タブにターゲットのプロパティを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
ターゲットディレクトリ	ファイル転送先のディレクトリです。Secure Agent がこのディレクトリにアクセスする必要があります。
パラメータの追加	式を作成し、 ターゲットディレクトリ パラメータとして追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」(ページ 43)を参照してください。
ファイルが存在する場合	ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがある場合に、ファイルの処理を決定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- 上書き。既存のファイルを上書きします。- タイムスタンプを付加。既存のファイルを保持し、転送されるファイルの名前にタイムスタンプを追加します。- エラー。ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがある場合、ジョブは失敗します。
中間ファイルの作成	ファイルがターゲットの場所に完全に転送されるまでの中間ファイルを作成します。 例えば、file.txt という名前のファイルをソースからターゲットに転送すると、ファイルが完全に転送されるまで、ターゲットの場所に file.txt_644a1f88 という名前の中間ファイルが表示されます。 重要 : Amazon S3 V2、Google Cloud Storage V2、Microsoft Azure Blob Storage v3、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2、および Hadoop Files V2 からデータを読み取る場合は適用されません。

Microsoft Azure Blob Storage V3 ターゲットのプロパティ

Microsoft Azure Blob Storage ソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【**ターゲット**】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
BLOB コンテナ	Microsoft Azure Blob Storage コンテナ（フォルダパスとコンテナ名を含む）。
パラメータの追加	式を作成し、 BLOB コンテナ パラメータとして追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」(ページ 43)を参照してください。
BLOB のタイプ	BLOB のタイプ。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">- BLOB のブロック。テキストファイルまたはバイナリファイル（ドキュメントやメディアファイルなど）の保存に適しています。- BLOB の追加。ログのシナリオなど、追加操作用に最適化されています。
ファイル圧縮	ファイルがターゲットディレクトリに転送される前に圧縮されるかどうかを決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">- なし。ファイルは圧縮されません。- GZIP ファイルは GZIP 圧縮を使用して圧縮されます。
Blob Store への同時接続数	Microsoft Azure Blob Storage コンテナへの同時接続数。

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ターゲットプロパティ

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【**ターゲット**】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

ターゲットプロパティ	説明
ターゲットディレクトリ	ファイル転送先のディレクトリです。ディレクトリが存在しない場合は、実行時に作成されます。実行時に指定されたディレクトリパスで、接続の作成時に指定されたパスが上書きされます。 デフォルト値は接続で指定されたターゲットディレクトリです。 相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたターゲットディレクトリの相対パスです。
パラメータの追加	式を作成し、 ターゲットディレクトリ パラメータとして追加します。詳細については、 「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43) を参照してください。
ファイル圧縮	ファイルがターゲットディレクトリに転送される前に圧縮されるかどうかを決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">- なし。ファイルは圧縮されません。- GZIP ファイルは GZIP 圧縮を使用して圧縮されます。
ファイルが存在する場合	ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがある場合に、ファイルの処理を決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">- 上書き- 付加- 失敗
ブロックサイズ(バイト)	大きなファイルを指定された小さなブロックサイズに分割します。サイズの大きいファイルを書き込む場合は、ファイルを小さな部分に分割し、同時接続を設定して、データを並列処理するために必要な数のスレッドを生成してください。 デフォルトは、8388608 バイト (8MB) です。

Microsoft Azure Data Lake Store Gen1 V3 ターゲットのプロパティ

Microsoft Azure Data Lake Store Gen1 V3 ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【**ターゲット**】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

ターゲットプロパティ	説明
ターゲットディレクトリ	ファイル転送先のディレクトリです。 デフォルト値は接続で指定されたターゲットディレクトリです。 相対パスを入力できます。相対パスを入力するには、パスをピリオドで開始し、その後にスラッシュを続けます (./)。パスは、接続で指定されたターゲットディレクトリの相対パスです。
パラメータの追加	式を作成し、 ターゲットディレクトリ パラメータとして追加します。詳細については、 「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43) を参照してください。

ターゲットプロパティ	説明
ファイル圧縮	<p>ファイルがターゲットディレクトリに転送される前に圧縮されるかどうかを決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。ファイルは圧縮されません。 - GZIP ファイルは GZIP 圧縮を使用して圧縮されます。
ファイルが存在する場合	<p>ターゲットディレクトリに同じ名前のファイルがある場合に、ファイルの処理を決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 上書き - 付加 - 失敗

Microsoft Azure Synapse SQL ターゲットのプロパティ

Microsoft Azure Synapse SQL ソースを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【ターゲット】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

プロパティ	説明
取り込み方法	<p>Microsoft Azure Synapse SQL にデータをロードするための取り込み方法。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - PolyBase - COPY コマンド
コマンドのタイプ	<p>取り込み方法のコマンドタイプ。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自動生成。このオプションを選択すると、コマンドのプロパティを定義できます。 - カスタム。このオプションを選択すると、ファイル取り込みタスクが使用するカスタムコマンドを指定できます。

次の表は、**Polybase** または **COPY コマンド** 取り込み方法と **自動生成** コマンドタイプを選択した場合の Microsoft Azure Synapse SQL ターゲット詳細オプションについて説明しています。

注: 自動生成コマンドタイプは、テキストおよび CSV 形式のファイルにのみ適用できます。

プロパティ	説明
ターゲットテーブル名	ファイルをロードする Microsoft Azure Synapse SQL のテーブルの名前。
パラメータの追加	式を作成して、 ターゲットテーブル名 パラメータと スキーマ パラメータとして追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」(ページ 43)を参照してください。
スキーマ	Microsoft Azure Synapse SQL スキーマ名。相対値を入力して、接続で渡されるスキーマ値を選択できます。相対値を使用するには、省略記号 (...) を入力します。
ターゲットテーブルの切り詰め	ロード前にターゲットテーブルを切り詰めます。

プロパティ	説明
Pre SQL	<p>ファイル取り込みタスクが PolyBase または Copy コマンドを実行する前に実行する SQL コマンド。</p> <p>注: 【並行バッチ】 の値が 1 より大きい場合であっても、この操作はすべてのバッチに対して実行されます。</p>
Post SQL	<p>ファイル取り込みタスクが PolyBase または Copy コマンドを実行した後で実行する SQL コマンド。</p> <p>注: 【並行バッチ】 の値が 1 より大きい場合であっても、この操作はすべてのバッチに対して実行されます。</p>
フィールド区切り文字	<p>ファイル内のフィールドを区切るために使用する文字。デフォルト値は 0x1e です。リストから以下のフィールド区切り文字を選択できます。</p> <p>~ ` .TAB 0x1e</p>
文字列の引用符	<p>Microsoft Azure Synapse SQL にデータを書き込むときにスキップする引用符を指定します。Microsoft Azure Synapse SQL にデータを書き込む際に、指定した引用符がソーステーブルに含まれていると、タスクは失敗します。引用符の値をソーステーブルに存在しない値に変更します。</p>
外部ステージ*	<p>ファイルを Microsoft Azure Synapse SQL にロードする際に使用する外部ステージディレクトリを指定します。ファイルは、Microsoft Azure Blob Storage または Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 でステージングできます。</p> <p>ファイル 取り込みタスクは、Administrator の Microsoft Azure Synapse SQL 接続の次のプロパティで指定された値を使用して、外部ステージパスプロパティを自動的に入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ファイルシステム名 (ADLS Gen2 が接続ストレージタイプである場合)。 - コンテナ名 (Azure Blob が接続ストレージタイプである場合) <p>値をオーバーライドできます。</p>
ファイル圧縮*	<p>ターゲットディレクトリへの転送の前にファイルを圧縮するかどうかを指定します。</p> <p>選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。ファイルを圧縮しません。 - GZIPGZIP 圧縮を使用してファイルを圧縮します。
同時接続数*	<p>Microsoft Azure Blob Storage または Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 からデータを抽出する際の同時接続数。サイズの大きいファイルまたはオブジェクトを読み取る場合は、複数のスレッドを生成してデータを処理できます。BLOB パートサイズまたはブロックサイズを設定して、大きなファイルを小さな部分に分割します。</p> <p>デフォルト値は 4 です。最大値は 10 です。</p>
<p><i>*Microsoft Azure Blob Storage または Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 からデータを読み取る場合は適用されません。</i></p>	

次の表は、**Polybase** または **COPY コマンド** 取り込み方法と **カスタムコマンド** タイプを選択した場合の Microsoft Azure Synapse SQL ターゲット詳細プロパティについて説明しています。

プロパティ	説明
ファイル形式の定義	<p>Polybase 取り込み方法に適用されます。</p> <p>Transact-SQL CREATE EXTERNAL FILE FORMAT 文。以下に例を示します。</p> <pre>CREATE EXTERNAL FILE FORMAT {{fileFormatName}} WITH (FORMAT_TYPE = DELIMITEDTEXT, FORMAT_OPTIONS (FIELD_TERMINATOR = ',', STRING_DELIMITER = '"'))</pre> <p>以下は、Parquet 形式で外部ファイルを作成する例です。</p> <pre>CREATE EXTERNAL FILE FORMAT {{fileFormatName}} WITH (FORMAT_TYPE = PARQUET)</pre> <p>同様に、JSON、Avro、および ORC 形式で外部ファイルを作成できます。</p> <p>CREATE EXTERNAL FILE FORMAT 文の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。</p>
外部テーブルの定義	<p>Polybase 取り込み方法に適用されます。</p> <p>Transact-SQL CREATE EXTERNAL TABLE 文。以下に例を示します。</p> <pre>CREATE EXTERNAL TABLE {{externalTable}} (id INT, name NVARCHAR (100)) WITH (LOCATION = '{{blobLocation}}', DATA_SOURCE = {{dataSourceName}}, FILE_FORMAT = {{fileFormatName}})</pre> <p>以下は、Parquet 形式で外部テーブルを作成する例です。</p> <pre>CREATE EXTERNAL TABLE {{externalTable}} (username VARCHAR (100), number int, colour VARCHAR (100)) WITH (LOCATION = '{{blobLocation}}', DATA_SOURCE = {{dataSourceName}}, FILE_FORMAT = {{fileFormatName}})</pre> <p>同様に、JSON、Avro、および ORC 形式で外部テーブルを作成できます。</p> <p>CREATE EXTERNAL TABLE 文の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。</p>
Insert SQL の定義	<p>Polybase 取り込み方法に適用されます。</p> <p>Transact-SQL INSERT 文。以下に例を示します。</p> <pre>INSERT INTO schema.table (id, name) SELECT id+5, name FROM {{externalTable}}</pre> <p>以下は、Parquet 形式で挿入 SQL を定義する例です。</p> <pre>INSERT INTO testing.test_parq(username,number,colour) SELECT username, number,colour FROM {{externalTable}};</pre> <p>同様に、JSON、Avro、および ORC 形式で Insert SQL を定義できます。</p> <p>INSERT 文の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。</p>
Copy コマンドの定義	<p>COPY コマンドの取り込み方法に適用されます。</p> <p>Transact-SQL COPY INTO 文。以下に例を示します。</p> <pre>COPY INTO schema.table FROM EXTERNALLOCATION WITH(CREDENTIAL = (AZURECREDENTIALS), FIELDTERMINATOR = ',', FIELDQUOTE = '"')</pre> <p>以下は、Parquet 形式で COPY コマンドを定義する例です。</p> <pre>COPY INTO testing.test_parq FROM EXTERNALLOCATION WITH(CREDENTIAL = (AZURECREDENTIALS), FILE_TYPE = 'PARQUET')</pre> <p>同様に、JSON、Avro、および ORC 形式で COPY コマンドを定義できます。</p> <p>COPY INTO 文の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。</p>
Pre SQL	<p>ファイル取り込みタスクが PolyBase コマンドを実行する前に実行する SQL コマンド。</p> <p>注: [並行バッチ] の値が 1 より大きい場合であっても、この操作はすべてのバッチに対して実行されます。</p>
Post SQL	<p>ファイル取り込みタスクが PolyBase コマンドを実行した後に実行する SQL コマンド。</p> <p>注: [並行バッチ] の値が 1 より大きい場合であっても、この操作はすべてのバッチに対して実行されます。</p>

プロパティ	説明
外部ステージ*	ファイルを Microsoft Azure Synapse SQL にロードする際に使用する外部ステージディレクトリを指定します。ファイルは、Microsoft Azure Blob Storage または Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 でステージングできます。
同時接続数*	Microsoft Azure Blob Storage または Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 からデータを抽出する際の同時接続数。サイズの大きいファイルまたはオブジェクトを読み取る場合は、複数のスレッドを生成してデータを処理できます。BLOB パートサイズまたはブロックサイズを設定して、大きなファイルを小さな部分に分割します。 デフォルト値は 4 です。最大値は 10 です。
*Microsoft Azure Blob Storage または Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 からデータを読み取る場合は適用されません。	

Microsoft Fabric OneLake ターゲットプロパティ

Microsoft Fabric OneLake ターゲットを使用したファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【ターゲット】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

オプション	説明
ターゲットディレクトリ	ファイル転送先のディレクトリです。Secure Agent がこのディレクトリにアクセスする必要があります。
パラメータの追加	式を作成し、 フォルダパス パラメータとして追加します。詳細については、 「ソースとターゲットのパラメータ」 (ページ 43)を参照してください。
ファイル圧縮	ファイルがターゲットディレクトリに転送される前に圧縮されるかどうかを決定します。次のいずれかのオプションを選択します。 - なし。ファイルを圧縮しません。 - GZIP/GZIP 圧縮形式を使用してファイルを圧縮します。
ファイルが存在する場合	同じ名前のファイルがターゲットディレクトリに存在する場合に、Secure Agent がファイルに対して実行する必要があるアクションを決定します。次のいずれかのオプションを選択します。 - 上書き - 付加 注: バイナリファイルに対して append オプションを指定してジョブを実行した場合、ファイルの内容は追加されません。

Snowflake Data Cloud ターゲットのプロパティ

Snowflake Data Cloud ターゲットを使用してファイル取り込みタスクを定義する場合は、タスクウィザードの【ターゲット】タブにターゲットのオプションを入力する必要があります。

以下の表に、ターゲットのオプションを示します。

プロパティ	説明
ウェアハウス	Snowflake Data Cloud 接続で指定された名前をオーバーライドします。相対値を入力して、接続で渡されるウェアハウス値を選択できます。相対値を入力するには、3つのピリオドを入力します (...)。
パラメータの追加	式を作成して、 ウェアハウスパラメータ 、 データベースパラメータ 、 スキーマパラメータ および ターゲットテーブル名 パラメータとして追加します。詳細については、「 ソースとターゲットのパラメータ 」 (ページ 43)を参照してください。
データベース	Snowflake Data Cloud のデータベース名。
スキーマ	Snowflake Data Cloud のスキーマ名。
ターゲットテーブル名	Snowflake Data Cloud ターゲットテーブルのテーブル名。 ターゲットテーブル名では、大文字と小文字が区別されます。
ロール	接続で指定された Snowflake Data Cloud ユーザーロールをオーバーライドします。相対値を入力して、接続で渡されるロール値を選択できます。相対値を使用するには、省略記号 (...) を入力します。
Pre SQL	書き込み操作の開始前にターゲットで実行される SQL 文。 注: 【並行バッチ】 の値が 1 より大きい場合であっても、この操作はすべてのバッチに対して実行されます。
Post SQL	書き込み操作の完了後にターゲットテーブルで実行される SQL 文。 注: 【並行バッチ】 の値が 1 より大きい場合であっても、この操作はすべてのバッチに対して実行されます。
ターゲットテーブルの切り詰め	新しい行を挿入する前にデータベースターゲットテーブルをトランケートします。すべての行を挿入する前にターゲットテーブルを切り詰める場合は、このオプションを有効にします。このオプションを無効にすると、ターゲットテーブルを切り詰めずに新しい行が挿入されます。
ファイル形式およびコピーオプション	Snowflake Data Cloud にデータを読み込むためのコピーオプションとファイル形式。 コピーオプションは、ファイルからデータを読み込むときにエラーが発生した場合にタスクが実行するアクションを指定します。 エラーが発生したときに COPY 文を中止するには、次のコピーオプションを指定できます。 ON_ERROR = ABORT_STATEMENT ファイルを読み込む際に、ファイル形式を指定し、データファイルのルールを定義します。タスクはデータを Snowflake Data Cloud テーブルに一括読み込みする際に、指定されたファイル形式とルールを使用します。 次の形式がサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> - CSV - JSON - Avro - ORC - Parquet

プロパティ	説明
外部ステージ	<p>ファイルを Snowflake Data Cloud テーブルに読み込む際に使用する外部ステージディレクトリを指定します。</p> <p>指定したソースフォルダパスが、Snowflake Data Cloud での特定の接続タイプに対する外部ステージの URL で指定されているフォルダパスと同じであることを確認してください。</p> <p>ファイル取り込みのソースが Microsoft Azure Blob Storage および Amazon S3 である場合に適用されます。外部ステージは、接続タイプとして Microsoft Azure Blob Storage V3 を使用する場合は必須ですが、Amazon S3 V2 を使用する場合はオプションです。Amazon S3 V2 の場合に外部ステージを指定しなかった場合、Snowflake Data Cloud はデフォルトで外部ステージを作成します。</p>
ファイル圧縮	<p>ファイルがターゲットディレクトリに転送される前に圧縮されるかどうかを決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。ファイルは圧縮されません。 - GZIP ファイルは GZIP 圧縮を使用して圧縮されます。 <p>Microsoft Azure Blob Storage V3 および Amazon S3 V2 以外の、ファイル取り込みタスクをサポートするすべてのソースに適用されます。</p>

ファイル形式およびコピーオプション

大量のファイルを Snowflake Data Cloud に転送するファイル取り込みタスクを設定する場合は、データを読み込むためのコピーオプションとファイル形式を指定します。

ファイル取り込みタスクの Snowflake Data Cloud 接続を選択し、ターゲットオプションでコピーオプションとファイルを形式を指定して、ファイルを Snowflake Data Cloud ターゲットテーブルに読み込む方法を決定します。

コピーオプションは、ファイルからデータを読み込むときにエラーが発生した場合にタスクが実行するアクションを指定します。

エラーが発生したときに COPY 文を中止するには、次のコピーオプションを指定できます。

ON_ERROR = ABORT_STATEMENT

注: Snowflake Data Cloud のファイル取り込みタスクは、ON_ERROR コピーオプションの ABORT_STATEMENT に対してのみ認定されています。

ファイルを読み込む際に、ファイル形式を指定し、データファイルのルールを定義します。タスクはデータを Snowflake Data Cloud テーブルに一括読み込みする際に、指定されたファイル形式とルールを使用します。

次のリストは、一部の形式タイプオプションを示しています。

- RECORD_DELIMITER = '<character>' | NONE 入力ファイルのレコードを区切る 1 つの文字。
- FIELD_DELIMITER = '<character>' | NONE 入力ファイルのレコードを区切る 1 つの文字を指定します。
- FILE_EXTENSION = '<string>' | NONE ステージにアップロードするファイルの拡張子を指定します。
- SKIP_HEADER = <integer> ファイルの始めにスキップする行番号。
- DATE_FORMAT = '<string>' | AUTO データファイルまたはテーブルの日付値の形式を定義します。
- TIME_FORMAT = '<string>' | AUTO データファイルまたはテーブルの時刻値の形式を定義します。
- TIMESTAMP_FORMAT = <string>' | AUTO データファイルまたはテーブルのタイムスタンプ値の形式を定義します。

Snowflake にファイルをロードするためのファイル形式とコピーオプションの例

CSV ファイル形式を作成し、Snowflake にファイルをロードするために次のルールを定義します。

- パイプ文字 (|) を使用してフィールドを区切ります。
- ファイルには 1 行のヘッダー行が含まれ、この行はスキップされます。

file_format = (type = csv field_delimiter = '|' skip_header = 1) というファイル形式を指定します。

文字 && を使用して、コピーオプションとファイル形式を指定できます。

例: file_format = (type = csv field_delimiter = ',' skip_header = 2) &&on_error=ABORT_STATEMENT

同様に、**【ファイル形式およびコピーオプション】** フィールドで次のファイル形式を使用して、データを個別の列にロードします。

- JSON の場合: on_error='ABORT_STATEMENT' &&file_format = (type = json) &&MATCH_BY_COLUMN_NAME=CASE_INSENSITIVE
- AVRO の場合: on_error='ABORT_STATEMENT' &&file_format = (type = avro) &&MATCH_BY_COLUMN_NAME=CASE_INSENSITIVE
- ORC の場合: on_error='ABORT_STATEMENT' &&file_format = (type = orc) &&MATCH_BY_COLUMN_NAME=CASE_INSENSITIVE
- PARQUET の場合: on_error='ABORT_STATEMENT' &&file_format = (type = parquet) &&MATCH_BY_COLUMN_NAME=CASE_INSENSITIVE

文字列 MATCH_BY_COLUMN_NAME は、データで表される対応する列と一致するターゲットテーブルの列に半構造化データをロードするかどうかを指定します。サポートされているオプションは、CASE_SENSITIVE、CASE_INSENSITIVE、および NONE です。デフォルトは NONE です。

列がデータとテーブルで一致するためには、次の基準を考慮してください。

- データで表される列は、テーブルの列と同じ名前である必要があります。列名では、大文字と小文字が区別される (CASE_SENSITIVE) か、大文字と小文字が区別されない (CASE_INSENSITIVE) かのいずれかです。
- 列は任意の順序にすることができます。
- テーブルの列は、データで表される列の値と互換性のあるデータ型である必要があります。たとえば、文字列、数値、ブール値をバリエーション列にロードできます。

指定可能なさまざまなファイル形式とコピーオプションの詳細については、Web サイト

<https://docs.snowflake.net/manuals/sql-reference/sql/copy-into-table.html#copy-options-copyoptions> にある Snowflake Data Cloud のドキュメントを参照してください。

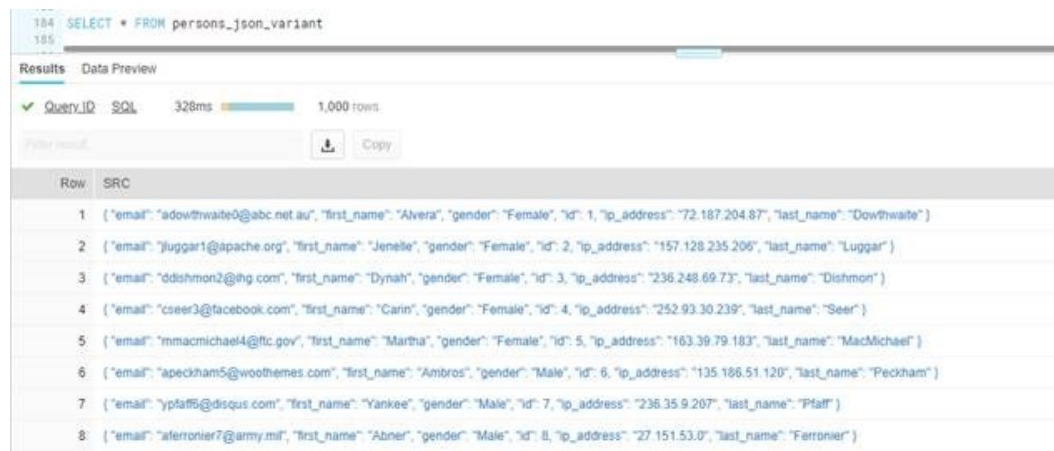
JSON ファイルのロードのルールとガイドライン

JSON 形式のファイルを Snowflake Data Cloud にロードするときは、次のルールとガイドラインを考慮してください。

JSON 形式のファイルを Snowflake Data Cloud にロードする場合、ターゲットテーブルのバリエーションタイプは 1 列だけにする必要があります。

JSON 形式のファイルを列形式にロードするには、次のタスクを考慮します。

例として、バリエーションカラムを持つテーブルの次のデータビューを参照します。



Row	SRC
1	{ "email": "adownthwaite0@abc.net.au", "first_name": "Avera", "gender": "Female", "id": 1, "ip_address": "72.187.204.87", "last_name": "Dowthwaite" }
2	{ "email": "juggar1@apache.org", "first_name": "Jenele", "gender": "Female", "id": 2, "ip_address": "157.128.235.206", "last_name": "Luggar" }
3	{ "email": "ddishmon2@ihg.com", "first_name": "Dynah", "gender": "Female", "id": 3, "ip_address": "236.248.69.73", "last_name": "Dishmon" }
4	{ "email": "cseer3@facebook.com", "first_name": "Carin", "gender": "Female", "id": 4, "ip_address": "252.93.30.239", "last_name": "Seer" }
5	{ "email": "mmacmichael4@ftc.gov", "first_name": "Martha", "gender": "Female", "id": 5, "ip_address": "163.39.79.183", "last_name": "MacMichael" }
6	{ "email": "apeckham5@woothemes.com", "first_name": "Ambros", "gender": "Male", "id": 6, "ip_address": "135.186.51.120", "last_name": "Peckham" }
7	{ "email": "yptaff5@disqus.com", "first_name": "Yankee", "gender": "Male", "id": 7, "ip_address": "236.35.9.207", "last_name": "Plaff" }
8	{ "email": "aferronier7@army.mil", "first_name": "Abner", "gender": "Male", "id": 8, "ip_address": "27.151.53.0", "last_name": "Feronier" }

テーブルをカラムナ形式に更新するには、次の SQL クエリをマッピングタスクの【後処理コマンド】フィールドから実行します。

```
INSERT INTO PERSONS_JSON SELECT parse_json($1):email,  
parse_json($1):first_name,  
parse_json($1):gender,  
parse_json($1):id,  
parse_json($1):ip_address,  
parse_json($1):last_name from PERSONS_JSON_VARIANT
```

マッピングタスクの実行後、Secure Agent はカラムナ形式のデータを Snowflake にコピーします。

Row	EMAIL	FIRST_NAME	GENDER	ID	IP_ADDRESS	LAST_NAME
1	adownthwaite0@abc.net.au	Avera	Female	1	72.187.204.87	Dowthwaite
2	juggar1@apache.org	Jenele	Female	2	157.128.235.206	Luggar
3	ddishmon2@ihg.com	Dynah	Female	3	236.248.69.73	Dishmon
4	cseer3@facebook.com	Carin	Female	4	252.93.30.239	Seer
5	mmacmichael4@ftc.gov	Martha	Female	5	163.39.79.183	MacMichael
6	apeckham5@woothemes.com	Ambros	Male	6	135.186.51.120	Peckham
7	yptaff5@disqus.com	Yankee	Male	7	236.35.9.207	Plaff
8	aferronier7@army.mil	Abner	Male	8	27.151.53.0	Feronier

外部ステージ

Microsoft Azure Blob Storage または Amazon S3 ソースから Snowflake Data Cloud テーブルにファイルを読み込むファイル取り込みタスクを構成する場合、Snowflake で使用する外部ステージングディレクトリを指定します。

ファイル取り込みタスクの【ターゲットオプション】セクションで使用する特定の接続タイプに対して外部ステージ名を指定する必要があります。

Microsoft Azure Blob Storage から Snowflake Data Cloud にファイルを読み込むファイル取り込みタスクを実行する場合、ソースの接続タイプが Microsoft Azure Blob Storage V3 であれば、【外部ステージ】フィールドの値は必須です。ソースの接続タイプが Amazon S3 V2 で、Snowflake Data Cloud のターゲットオプションで Amazon S3 V2 の外部ステージをユーザーが指定していない場合、Snowflake ではデフォルトで外部ステージングディレクトリが作成されます。Snowflake に接続するには、外部ステージの作成およびコピーコマンドの権限が必要です。

ファイル取り込みタスクの【ソースオプション】のソースディレクトリパスが、Snowflake Data Cloud で Microsoft Azure Blob Storage V3 接続または Amazon S3 V2 接続用に作成された外部ステージの URL で指定されているディレクトリパスと同じであることを確認してください。

例えば、Azure のアカウント名とフォルダパスを持つ Blob コンテナを使用して作成された Microsoft Azure Blob Storage 用の外部ステージは、次のステージ URL を持ちます。'azure://<URL>/<Blob コンテナ>/<フォルダパス>'.ステージは、ファイル取り込みタスクの【ターゲットオプション】で指定したファイル形式を使用します。

次の図は、Snowflake Data Cloud における Microsoft Azure Blob Storage V3 接続用のステージ名とステージ URL を示しています。

Create Stage

Staged files will be stored in the specified Azure location

Name*

Schema Name

URL *

Azure SAS Token

Encryption Master Key

Comment

[Show SQL](#)

この例では、ステージ URL は `azure://adapterdevblob.blob.core.windows.net/snowflakemi/MI/` で、外部ステージ名は `MFT_BLOB1` です。

ファイル取り込みジョブを作成するときに、Microsoft Azure Blob Storage V3 ソースの【ソースオプション】の【フォルダパス】フィールドで、ステージ URL である `/snowflakemi/MI` から次の<Blob コンテナ>/<フォルダパス>を指定します。

次の図は、【ソースオプション】セクションで指定されたソースフォルダパスを示しています。

1 Definition 2 Source 3 Target 4 Actions 5 Runtime Options

Source Details

Source Type: ☒ Source Connection ☐ File Listener

Connection Type:

Connection: [View](#)

Description:

Account Name: adapterdevblob

Source Options

File Pickup: ☒ By Pattern ☐ By File List

Source Directory: [Add Parameters](#)

☐ Include files from sub-folders

☐ File Pattern

☒ File Date

☐ File Size

☐ Skip duplicate files

☐ Check File Stability Stability Check Interval:

Batch Size:

Snowflake Data Cloud の【ターゲットオプション】で、作成された外部ステージの名前 MFT_BLOB1 を指定します。

次の図は、[ターゲットオプション] セクションで設定された外部ステージフィールドを示しています。

The screenshot displays the 'Target Options' configuration page for a Snowflake Data Cloud target. The 'Target' tab is active. The 'Target Details' section includes fields for 'Connection Type' (Snowflake Data Cloud), 'Connection' (ASnowflakeoldconn), 'Description', 'Account' (informatica), and 'Additional JDBC URL Parameter'. The 'Target Options' section includes fields for 'Warehouse' (TEST_WH), 'Database' (SALES), 'Schema' (MFT), 'Target Table Name' (TEST_MI), 'Role' (UNIT), 'Pre SQL', 'Post SQL', 'Truncate Target Table' (unchecked), 'File Format And Copy Options' (on_error=ABORT_STATEMENT), and 'External Stage' (MFT_BLOB1). Each field has an associated 'Add Parameters' link.

Snowflake Data Cloud ファイル取り込みタスクのルールおよびガイドライン

サポート対象のファイル取り込みソースから Snowflake Data Cloud に書き込むファイル取り込みタスクを設定する場合は、1 回のバッチで転送できる最大数のファイルのバッチサイズを指定する必要があります。ファイル取り込みタスクに必要なソースのプロパティで、バッチサイズの値を指定します。バッチサイズを指定すると、タスクのパフォーマンスが最適化されます。

デフォルトのバッチサイズは 5 です。Amazon S3 または Azure Blob Storage ソースから Snowflake ターゲットに書き込む場合は、Amazon S3 または Azure Blob Storage ソースのプロパティで、最大バッチサイズの 1000 を指定できます。ファイル取り込みをサポートする他のソースの場合は、1 から 20 の間でバッチサイズを指定する必要があります。

ファイル処理アクションの設定

一括取り込みファイルがファイルを転送する前にファイルに対して実行する、圧縮や暗号化などのファイル処理アクションを定義できます。

1. ファイル処理アクションを追加するには、[アクション] タブのプラス記号をクリックします。
[アクションの詳細] ウィンドウが表示されます。
2. 次のファイル処理アクションを実行します。

アクション	説明
圧縮	<p>ファイルを圧縮するには、[圧縮] を選択します。その後、次のアクションタイプのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">- Zip- Gzip- Tar- Bzip2 <p>パスワードを入力して.zip ファイルを保護することができます。.zip ファイルに複数のファイルが含まれている場合は、すべての圧縮ファイルに同じパスワードが適用されます。</p>
圧縮解除	<p>圧縮ファイルを圧縮解除するには、[圧縮解除] を選択します。その後、次のアクションタイプのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">- Unzip- Gunzip- Untar- Bunzip2 <p>ファイルの圧縮に使用された圧縮アクションタイプに対応するアクションタイプを使用してください。たとえば、.zip ファイルの場合は、Unzip の方法を使用します。</p> <p>パスワードで保護された.zip ファイルを解凍するには、正しいパスワードを入力してください。誤ったパスワードで圧縮ファイルを解凍しようとすると、ジョブは失敗します。例えば、5 ファイルのうち、4 ファイルが同じパスワードで保護され、残りの 1 つのファイルが別のパスワードで保護されている場合に、ジョブが誤ったパスワードでファイルを解凍しようとすると失敗します。</p> <p>パスワードを使用していない圧縮ファイルを開くと、一括取り込みファイルは、アクションで入力したパスワードを無視します。例えば、5 ファイルのうち、4 ファイルのみがパスワードで保護されている場合、ジョブは正常に実行され、5 ファイルすべてが解凍されます。</p>
暗号化	<p>PGP 暗号化方法を使用してファイルを暗号化するには、[暗号化] を選択します。次に、[PGP] を選択して、ファイルを復号化するユーザーのキー ID を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">- 署名キーを追加するには、[署名] を選択します。 <p>キー ID とキーパスフレーズが有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none">- ファイルの接尾辞を入力します。デフォルトは.pgp です。デフォルト値を上書きできます。- プライベートキー ID とキーパスフレーズを入力します。 <p>注: ファイル取り込みで転送されるファイルの保護に関する詳細については、「「一括取り込みファイルのセキュリティ」 (ページ 11)」を参照してください。</p>
復号化	<p>PGP で暗号化されたファイルを復号化するには、[復号化] を選択します。次に、[PGP] を選択して、ターゲットディレクトリのユーザーのキーパスフレーズを入力します。</p>

アクション	説明
ファイル操作	<p>ターゲットディレクトリ内のファイルに対して操作を実行するには、【ファイル操作】 を選択します。その後、次のアクションタイプのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 非階層化。ファイルを複数のフォルダからターゲットディレクトリの 1 つのフォルダへ移動します。 - ファイル名の変更。ターゲットディレクトリ内のファイルの名前を変更します。 <p>アクションとしてファイルの名前を変更することを選択した場合は、変数を入力して、名前を変更したファイルに接尾辞を付けます。</p>
ウイルススキャン	<p>ICAP プロトコルを使用してファイルのウイルスをスキャンするには、【ウイルススキャン】 を選択します。次に、【ICAP】 を選択して、【ICAP サーバー URL】 またはファイルがスキャンされるサーバーを入力します。ICAP は、マルウェアがファイルで検出されたかどうかを示す応答コードを送信します。</p> <p>注: 組織の ICAP サーバーを使用します。</p>

3. **【保存】** をクリックします。

別のアクションを追加するには、プラス記号をクリックします。アクションを削除するには、**【削除】** をクリックします。ファイル取り込みタスクがファイルを処理する順序を変更するには、アクションのシーケンスをドラッグアンドドロップします。

4. **【次へ】** をクリックします。**【ランタイムオプション】** タブが表示されます。

ランタイムオプションの設定

ファイル取り込みタスクは手動で実行したり、特定の時間やファイルの転送準備完了時に実行されるようにタスクのスケジュールを設定したりすることもできます。タスクが失敗した場合に通知を受け取ることができます。複数のジョブとファイルバッチを同時に実行できます。ジョブが作成するログレベルを選択することもできます。

1. **【ランタイムオプション】** ページの **【スケジュールの詳細】** で、次のいずれかのオプションを選択します。
 - このタスクはスケジュールを使用しないタスクは、定義済みのスケジュールに従って実行されません。タスクは手動で実行できます。
 - このタスクは指定したスケジュールを使用する。タスクを実行するスケジュールを選択します。
 - このタスクはファイルリスナで実行する。タスクはファイルリスナがファイルイベントのタスクを通知するときに実行されます。ファイルイベントは、ファイルが監視対象フォルダに到着したとき、または監視対象フォルダのファイルが更新または削除されたときに発生します。
ファイルが到着するフォルダをリッスンするファイルリスナを作成する必要があります。ファイルリスナの作成についての詳細は『コンポーネント』ヘルプの「ファイルリスナ」セクションを参照してください。
2. **【障害管理】** で、**【障害時に通知を送信】** オプションを選択して、タスクが失敗した場合、およびタスクが感染ファイルを検出した場合に通知を受け取ります。通知の送信先の電子メールアドレスのコンマ区切りリストを入力します。

ファイル取り込みタスクは、感染ファイルを検出すると、そのファイルをソースから検疫ディレクトリにコピーします。デフォルトのディレクトリパスは、<エージェントの場所>/data/quarantine です。

3. 複数のファイル取り込みタスクジョブを同時に実行するには、**【詳細オプション】** で **【同時実行を許可】** を選択します。

警告: ターゲットに重複ファイルが含まれている場合、同時ジョブを実行すると予期しない結果が生じる可能性があります。

4. 並行して実行するファイルバッチの数を選択します。デフォルトは1です。
注: **【ターゲットテーブルの切り詰め】** オプションを使用するデータベースコネクタの場合、**【並行バッチ】** 値は1である必要があります。
5. ログレベルを選択して、ジョブが作成するログの詳細レベルを決定します。次のいずれかのオプションを選択します。
 - 通常。プロジェクトを実行したユーザーの名前、プロジェクトの開始時刻、渡された変数、プロジェクトの停止時刻など、プロジェクトレベルの情報をログに記録します。また、発生したエラーもログに記録します。
 - 自動。さらに、タスクの開始時刻と停止時刻をログに記録します。
 - 詳細。さらに、処理されたファイルの名前など、タスクレベルの詳細をログに記録します。
 - デバッグ。さらに、サーバーからのメッセージ応答など、詳細なデバッグ情報をログに記録します。デフォルト値は**【通常】**です。
6. **【保存】** をクリックします。

ファイル取り込みタスクの実行

ファイル取り込みタスクは次の方法で実行できます。

- ファイル取り込みタスクを手動で実行するには、**【参照】** ページでタスクに移動します。タスクが含まれている行で**【アクション】** をクリックし、**【実行】** を選択します。
または、**【タスクの詳細】** ページからタスクを手動で実行することもできます。**【タスクの詳細】** ページにアクセスするには、**【アクション】** をクリックし、**【表示】** を選択します。**【タスクの詳細】** ページで**【実行】** を選択します。
- ファイル取り込みタスクをスケジュールに従って実行するには、ファイル取り込みタスクウィザードでタスクを編集し、タスクをスケジュールに関連付けます。

ファイル取り込みジョブの強制終了

【稼働中】 状態のファイル取り込みジョブは強制終了できます。

ジョブを強制終了するには、**【マイジョブ】** ページを開き、ジョブの**【アクション】** メニューから**【強制終了】** を選択します。

キーリングコマンドリファレンス

ファイル取り込みタスクは Pretty Good Privacy (PGP) 方式を使用してファイルを暗号化および復号化します。Informatica Intelligent Cloud Services の管理者はコマンドラインインタフェース (CLI) を使用してキ

ー ID およびキーパスフレーズを作成します。その後で、管理者は Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーとこれらを共有し、ファイルを暗号化および復号化します。

エージェントの場所のファイルを更新する権限がある場合は、キーリングコマンドを実行できます。PGP 設定ファイルはエージェントのインストール時に作成されます。PGP 設定ファイルはパブリックキーリングおよびシークレットキーリングの場所をリストするプロパティで構成されます。既存のキーリングの場所を変更するには、プロパティを更新する必要があります。プロパティの更新の詳細については、*Administrator* のヘルプを参照してください。

PGP 設定ファイルのデフォルトの場所は、<agent location>/apps/MassIngestionRuntime/<latest version no>/conf/pgp-configuration.properties です。

createKeyRing コマンドを使用して、PGP 設定ファイルに定義したキーリングの場所にキーリングを作成します。

対称キーアルゴリズムを指定するには、次のプロパティを指定するように pgp-configuration.properties ファイルを更新します。

- pgp.encryptionAlgorithms=AES128, AES192, AES256, BLOWFISH, CAST5, and TWOFISH
- pgp.hashAlgorithms=MD2, MD5, RIPEMD160, SHA1, SHA256, SHA384, and SHA512
- pgp.compressionAlgorithms=ZIP,ZLIB

注: properties ファイルには少なくとも 1 つのアルゴリズムを入力する必要があります。pgp-configuration.properties ファイルに値を入力しない場合、またはアルゴリズムを指定しない場合は、最初のアルゴリズムがデフォルトとして自動的に選択されます。

キー ID を作成し、それらをキーリングに追加するには、createKeyPair コマンドを使用します。キー ID はパブリックキーとプライベートキーで構成されます。パブリックキーを別のパートナーからインポートする、または既存のキーペアを使用してそれを現在のエージェントのキーリングの場所にインポートするには、importKeys コマンドを使用します。

createKeyRing

キーリングを作成します。キーリングは、パブリックキーリングとシークレットキーリングで構成されます。

キーリングが存在する場合、コマンドにはキーリングがすでに存在している事を示すエラーが表示されます。

createKeyRing コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<--command|-c> createKeyRing
```

次のサンプルコマンドでは、キーリングが作成され、PGP 設定ファイルに定義した場所にキーリングが保存されます。

```
./pgp_cli.sh -c createKeyRing
```

コマンドによって、次の出力が表示されます。

```
KeyRing created successfully
```

createKeyPair

キーペアを作成します。キーペアまたはキー ID は、パブリックキーとプライベートキーで構成されます。

createKeyPair コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<--command|-c> createKeyPair
<--name|-n> key_name
<--passphrase|-p> passphrase
[<--size|-s> size]
```

```
<--expiration|-e> expiration_date>
<--email|-m> email
```

以下の表に、createKeyPair のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
--command -c	createKeyPair	必須。実行するコマンド。
--location -l	location	オプション。PGP キーファイルの場所。
--name -n	key_name	必須。キーペアの名前。
--passphrase -p	passphrase	必須。PGP キーのパスフレーズ。
--size -s	size	オプション。PGP キーのサイズ（ビット）。 次のいずれかの値を入力します。 - 512 - 1024 - 2048 - 4096 デフォルトは 512 です。
--expiration -e	expiration_date	必須。PGP キーペアの有効期限が切れる日付。 次の日付の形式を使用します。dd-mm-yyyy
--email -m	email	必須。ユーザーの電子メール ID。

注: type 引数は、RSA PGP キーを使用します。

次のサンプルコマンドでは、キーペアが作成され、そのキーペアがキーリングに追加されます。

```
./pgp_cli.sh -c createKeyPair -n Mykeypair -p Mykeypassphrase -s 1024 -e 31-12-2023 -m abc@informatica.com
```

コマンドによって、次の出力が表示されます。

```
13:01:13 INFO Default system locale: English (United States)
13:01:13 INFO Create Key Pair.
13:01:13 INFO Encryption Algorithms used-AES128,AES192,AES256,BLOWFISH,CAST5,TWOFISH
13:01:13 INFO Hash Algorithms used-SHA1,MD5
13:01:13 INFO Compression Algorithms used-ZIP,ZLIB
13:01:14 INFO Key pair was successfully created and added to your key ring. The key ID is
'0xCE090A15001A183B'.
13:01:14 INFO Key Pair created successfully.
```

listKeys

キーリングのすべてのキーをリストします。

listKeys コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<--command|-c> listKeys
```

次のサンプルコマンドでは、キーリング内のキーをリストします。

```
./pgp_cli.sh -c listKeys
```

コマンドによって、次の出力が表示されます。

```
12:10:38 INFO Default system locale: English (United States)
12:10:38 INFO Listing Keys.
12:10:38 INFO Total keys : 2
Key ID : 0x23149FC8C38658EA User : Mykeypair <abc@informatica.com./pgp_cli.sh> Description : Key Pair Key
Type : RSA Key Size : 1024 Expiration Date : Tue Dec 10 23:59:59 IST 2019

Key ID : 0x7B1E52AFB29030A6 User : new <a@b.com> Description : Key Pair Key Type : RSA Key Size : 1024
Expiration Date : Sat Sep 28 23:59:59 IST 2019
```

importKeys

キーを外部ファイルからキーリングへインポートします。

パブリックキーを外部ファイルからインポートする、または既存のキーペアを使用してそれを現在のエージェントのキーリングの場所にインポートするには、importKeys コマンドを使用します。

importKeys コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<--command|-c> importKeys <--location|-l> location
```

以下の表に、importKeys のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
-location -l	location	必須。インポートするキーペアまたはパブリックキーを含むファイルの名前と場所。

次のサンプルコマンドでは、キーをキーペアからキーリングにインポートします。

```
./pgp_cli.sh -c importKeys -l /root/RSFiles/SubFolder1/SubFolder2/file1.asc
```

コマンドによって、次の出力が表示されます。

```
12:37:09 INFO Default system locale: English (United States)
12:37:10 INFO Importing Keys.
12:37:10 INFO Public key '0x23149FC8C38658EA' with user ID 'doctest <abc@informatica.com./pgp_cli.sh>' was
imported successfully.
12:37:10 INFO 1 public keys and 0 secret keys were successfully imported into your key ring.
12:37:10 INFO Import Finished.
```


exportKeyPairs

キーペアをキーリングからファイルにエクスポートします。

exportKeyPairs コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<--command|-c> exportKeyPairs  
<--ids|-i> list_of_key_ids  
<--location|-l> location
```

以下の表に、exportKeyPairs のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
--ids -i	list_of_key_ids	必須。キーリング内のキー ID のカンマ区切りリスト。
--location -l	location	必須。キーペアをキーリングからエクスポートするファイルの名前と場所。

次のサンプルコマンドはキーペアをキーリングからローカルリポジトリにエクスポートします。

```
./pgp_cli.sh -c exportKeyPairs -i 0x23149FC8C38658EA -l /root/RSFiles/SubFolder1/file.asc
```

コマンドによって、次の出力が表示されます。

```
12:28:18 INFO Default system locale: English (United States)  
12:28:18 INFO Exporting Key Pairs.  
12:28:18 INFO Export Finished.
```

exportPublicKeys

パブリックキーをキーリングからファイルにエクスポートします。

exportPublicKeys コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<--command|-c> exportPublicKeys  
<--ids|-i> list_of_key_ids  
<--location|-l> location
```

以下の表に、exportPublicKeys のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
--ids -i	list_of_key_ids	必須。キーリング内の PGP キー ID のカンマ区切りリスト。
--location -l	location	パブリックキーをキーリングからエクスポートするファイルの名前と場所。

次のサンプルコマンドはパブリックキーをローカルリポジトリにエクスポートします。

```
./pgp_cli.sh -c exportPublicKeys -i 0x23149FC8C38658EA -l /root/RSFiles/SubFolder1/SubFolder2/file1.asc
```

コマンドによって、次の出力が表示されます。

```
12:32:10 INFO Default system locale: English (United States)  
12:32:10 INFO Exporting Public Keys.  
12:32:10 INFO Export Finished.
```

deleteKeys

キーリングからキーを削除します。

deleteKeys コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<--command|-c> deleteKeys <--ids|-i> list_of_key_ids
```

以下の表に、deleteKeys のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
--ids -i	list_of_key_ids	必須。キーリング内のキー ID のカンマ区切りリスト。

次のサンプルコマンドはキーを削除します。

```
./pgp_cli.sh -c deleteKeys -i 0x23149FC8C38658EA
```

コマンドによって、次の出力が表示されます。

```
12:36:46 INFO Default system locale: English (United States)
12:36:46 INFO Deleting Key.
12:36:47 INFO Key '0x23149FC8C38658EA' was deleted
12:36:47 INFO Delete Finished.
```

changePassphrase

キーのパスフレーズを変更します。

changePassphrase コマンドでは、以下の構文を使用します。

```
<--command|-c> changePassphrase
<--ids|-i> key_id
<--old-passphrase|-o> old_passphrase
<--passphrase|-p> new_passphrase
```

以下の表に、changePassphrase のオプションおよび引数を示します。

オプション	引数	説明
--ids -i	key_id	必須。キーリング内の PGP キー ID のカンマ区切りリスト。
--old-passphrase -o	old_passphrase	必須。PGP キーリングの古いパスフレーズ。
--passphrase -p	new_passphrase	必須。PGP キーリングの新しいパスフレーズ。

次のサンプルコマンドでは、古いキーパスフレーズを新しいキーパスフレーズに置き換えています。

```
./pgp_cli.sh -c changePassphrase -i 0xDA70CEEDF703DCBE -o Mykeypassphrase -p Mynewkeypassphrase
```

コマンドによって、次の出力が表示されます。

```
12:46:36 INFO Default system locale: English (United States)
12:46:36 WARN Unable to load pgp configuration file : ./conf/pgp-configuration.properties (No such file or
directory)
12:46:36 INFO Changing Key Pair.
12:46:36 INFO Passphrase for the key '0xDA70CEEDF703DCBE' was changed successfully. Please make sure to save
this passphrase in a secure place.
12:46:36 INFO Key Passphrase changed successfully.
```

第 2 章

一括取り込みファイル REST API

ファイル取り込みリソースを使用して、ファイル取り込みタスクを実行および監視します。

ファイル取り込みリソースを使用するときに、次のルールに注意してください。

- JSON 形式を使用します。
- 次のベース URL を使用する。
`<serverUrl>/mftsaas/api/v1/<API name>`
- 次の要求ヘッダー形式を使用する。
`<METHOD> <serverUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>`
`Content-Type: application/json`
`Accept: application/json`
`IDS-SESSION-ID: <SessionId>`

注: HTTP バージョンを自動的に含める Postman などのツールを使用する場合は、URL に HTTP バージョンを入力しないでください。HTTP バージョンが URL に 2 回出現すると、要求が失敗します。

job リソース

job リソースを使用して、ファイル取り込みジョブを開始します。また、ファイル取り込みタスクのジョブステータスやジョブのログを取得することもできます。ファイル取り込み REST API バージョン 1 の task リソースを使用して、タスクの ID と名前を取得します。

RUN 要求

ファイル取り込みタスクジョブを開始するには、次の URI を使用します。

`mftsaas/api/v1/job`

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
taskId	String	○	ファイル取り込み ID。
taskName	String	-	ファイル取り込み名。

ファイル取り込みジョブを開始するときは、指定したコネクタに対して次のソースディレクトリキーとターゲットディレクトリキーを使用します。

コネクタ	srcDir	tgtDir
ローカル	sourceDirectory	targetDirectory
ftp,ftps,sftp	sourceDirectory	targetDirectory
gcs	sourceDirectory	gcsTargetLocation
hdfs	sourceDirectory	hdfsTargetLocation
adlsGen2	sourceDirectory	adlsGen2TargetLocation
s3	s3SourceLocation	s3TargetLocation
blob	blobSourceLocation	blobContainer

ジョブリソース REST API を使用して、次のようなパラメータを上書きできます。

カテゴリ	パラメータ	ID
全般	ソース接続	sourceConnection
全般	ターゲット接続	targetConnection
全般	並列バッチログレベル	parallelBatch
全般	ログレベル	logLevel
ソース	ソースディレクトリ	sourceDirectory
ソース	ファイルパターン	filePattern
ソース	バッチサイズ	batchSize
ソース	サブフォルダのファイルを含む	includeSubfolder
ソース	重複するファイルをスキップ	checkDuplicate
ソース	ファイルの安定性を確認	fileStability
ソース	安定性確認間隔	stabilityCheckInterval
ターゲット	ターゲットディレクトリ	targetDirectory

注: ソース接続パラメータとターゲット接続パラメータを上書きするには、接続 ID を渡す必要があります。

次のサンプルを参照として使用して、ファイル取り込みタスクジョブを開始します。

```
{
  "taskId": "k1YHA1blhcBjbJvCIRQX2s",
  "taskName": "localtoLocal_param2"
}
```

次のサンプル要求を使用して、ユーザーインターフェースに渡されたソースオプション値を上書きします。

```
"variables": [{
  "variable": "<string>",
  "value": "<string>"
}]
```

次の例では、ジョブリソース REST API の使用中に、ユーザーインターフェースで渡されたパラメータ値が、JSON POST で指定された対応する値で上書きされます。

```
{
  "taskId": "0efdVUEZeV2cB0quomeksd",
  "taskName": "localtolocal_param2",
  "parameters": {
    "category": [{
      "id": "General",
      "parameter": [
        {
          "id": "sourceConnection",
          "value": "AdvancedSFTPv2"
        },
        {
          "id": "targetConnection",
          "value": "AdvancedSFTPv2"
        },
        {
          "id": "parallelBatch",
          "value": "10"
        },
        {
          "id": "logLevel",
          "value": "DEBUG"
        }
      ]
    }, {
      "id": "Source",
      "parameter": [{
        "id": "sourceDirectory",
        "value": "/root/test1"
      },
      {
        "id": "filePatternType",
        "value": "reg"
      }
    ]
  }
}
```

```

    },
    {
      "id": "filePattern",
      "value": "*.txt"
    },
    {
      "id": "batchSize",
      "value": "5"
    },
    {
      "id": "includeSubfolder",
      "value": "true"
    },
    {
      "id": "checkDuplicate",
      "value": "true"
    },
    {
      "id": "fileStability",
      "value": "true"
    },
    {
      "id": "stabilityCheckInterval",
      "value": "30"
    }
  ]
},
{
  "id": "Target",
  "parameter": [{
    "id": "targetDirectory",
    "value": "/root/test2"
  }]
}
]

```

```

    }
}

```

次の例は、filename を変数としてファイル取り込みタスクを上書きする方法を示しています。

```

{
  "taskId": "4m24k3UFWMkkqd55YDefIB",
  "taskName": "R41_Local_Local",
  "parameters": {
    "category": [
      {
        "id": "Source",
        "parameter": [
          {
            "id": "sourceDirectory",
            "value": "${Parentfolder}"
          },
          {
            "id": "filePickupFilePath",
            "value": "${filename}"
          },
          {
            "id": "batchSize",
            "value": "5"
          }
        ]
      },
      {
        "id": "Target",
        "parameter": [
          {
            "id": "targetDirectory",
            "value": "${Parentfolder}/Target"
          }
        ]
      }
    ]
  },
  "variables": [
    {
      "variable": "Parentfolder",
      "value": "root/Arun"
    },
    {
      "variable": "filename",
      "value": "filepath.txt"
    }
  ]
}

```

次の例は、filelist を変数としてファイル取り込みタスクを上書きする方法を示しています。

```

{
  "taskId": "4m24k3UFWMkkqd55YDefIB",
  "taskName": "R41_Local_Local",
  "parameters": {
    "category": [
      {
        "id": "Source",
        "parameter": [
          {
            "id": "sourceDirectory",
            "value": "${Parentfolder}"
          },
          {
            "id": "filePickupFileList",
            "value": "${filelist}"
          },
          {
            "id": "batchSize",

```



```

        "value": "5"
      }
    ],
    {
      "id": "Target",
      "parameter": [
        {
          "id": "targetDirectory",
          "value": "/${Parentfolder}/Target"
        }
      ]
    }
  ]
},
"variables": [
  {
    "variable": "Parentfolder",
    "value": "root/Arun"
  },
  {
    "variable": "filelist",
    "value": "File1.txt,File2.txt,File3.txt,File4.txt"
  }
]
}

```

RUN 応答

成功すると、ファイル取り込みでジョブの実行 ID を返します。実行 ID を使用して、ジョブのステータスを監視したり、ジョブのログファイルを要求したりします。

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

GET ステータス要求

特定のファイル取り込みタスクジョブのステータスを取得するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/job/<runId>/status

GET ステータス応答

成功すると、ファイル取り込みでジョブのステータスと詳細が返されます。これにはファイルのリストと、各ファイルの詳細およびステータスが含まれます。

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

GET ジョブのログ要求

特定のファイル取り込みタスクジョブのログファイルを取得するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/job/<runId>/logs

GET ジョブのログ応答

成功すると、ファイル取り込みでジョブのログファイルを返します。

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

activityLog リソース

activityLog ソースを使用して、タスク ID、実行 ID、またはその両方を使用して、完了したジョブの詳細を取得します。

REST API バージョン 1 リソース

ファイル取り込みタスク REST API バージョン 1 リソースを使用して、タスク ID、実行 ID、またはその両方を使用して、完了したジョブの詳細を取得します。

GET 要求

タスク ID を使用して完了したジョブの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks/activityLog?taskId=<taskId>

実行 ID を使用してアクティブなジョブまたは完了したジョブの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks/activityLog?runId=<runId>

スキップする行数を指定するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks/activityLog?taskId={{taskId}}&<offset>

行制限を指定するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks/activityLog?taskId={{taskId}}&<rowLimit>

上記のオプションは組み合わせて使用することができます。例えば、次のような URI を使用できます。

mftsaas/api/v1/mitasks/activityLog?runId=<runId>&taskId=<taskId>&rowLimit=<rowLimit>&offset=<offset>

activityLog の GET URI には、次の属性を使用できます。

フィールド	説明
taskId	ファイル取り込みタスクの ID。
runId	ファイル取り込み実行の ID。
offset	スキップする行数。例えば、最初の 3 行をスキップする場合に使用します。
rowLimit	返す最大行数。指定可能な最大数値は 100 です。デフォルトは 25 です。

注: GET URI で taskId または runId 属性のいずれかを指定する必要があります。

GET 応答

activityLog オブジェクトは、次の属性を返します。

フィールド	説明
id	ファイル取り込みジョブの ID。
totaljobCount	ジョブの総数。
taskId	ファイル取り込みタスクの ID。
runId	ファイル取り込み実行の ID。
startedBy	ファイル取り込みタスクを作成したユーザーの名前。

フィールド	説明
startTime	ジョブの開始時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
endTime	ジョブの終了時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
status	ジョブが正常に完了したかどうかを示します。
messageText	ジョブに関連付けられているエラーメッセージ。
successFiles	ソースからターゲットに正常に転送されたファイルの数。
failedFiles	ソースからターゲットに転送されなかったファイルの数。

GET の例

次の例は、タスク ID を使用してファイル取り込みジョブの詳細を取得した応答を示しています。

```
{
  "totalJobCount": 7,
  "jobActivityLog": [
    {
      "id": 1000000200272,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137205,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:55:13Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:55:15Z",
      "status": "FAILED"
    },
    {
      "id": 1000000200270,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137204,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:52:44Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:53:02Z",
      "status": "SUCCESS"
    },
    {
      "id": 1000000200268,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137202,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:49:55Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:50:12Z",
      "status": "SUCCESS"
    },
    {
      "id": 1000000200264,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137199,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:43:27Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:43:42Z",
      "status": "SUCCESS"
    },
    {
      "id": 1000000200262,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137198,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:13:58Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:14:04Z",
      "status": "FAILED"
    }
  ]
}
```

```

    },
    {
      "id": 1000000200261,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137197,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:13:09Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:13:28Z",
      "status": "SUCCESS"
    }
  ],
  {
    "id": 1000000200260,
    "taskId": 89882,
    "runId": 137196,
    "startedBy": "b2b_pod1",
    "startTime": "2021-09-13T09:12:21Z",
    "endTime": "2021-09-13T09:12:35Z",
    "status": "SUCCESS"
  }
]
}

```

次の例は、実行 ID を使用してファイル取り込みジョブの詳細を取得した応答を示しています。

```

{
  "jobActivityLog": [
    {
      "jobStatusResponse": {
        "jobStatus": "FAILED",
        "errorMessage": "[8008 - Create File List] Directory '/root/testnot' not found ",
        "jobDetails": {
          "jobNumber": 1000000200262,
          "status": "Failed",
          "startTime": "2021-09-13T09:13:58Z",
          "endTime": "2021-09-13T09:14:04Z",
          "messageText": "[8008 - Create File List] Directory '/root/testnot' not found ",
          "successFiles": 0,
          "failedFiles": 0,
          "fileDetails": []
        }
      }
    }
  ]
}

{
  "jobActivityLog": [
    {
      "jobStatusResponse": {
        "jobStatus": "FAILED",
        "errorMessage": "[8008 - Create File List] Directory '/root/testnot' not found ",
        "jobDetails": {
          "jobNumber": 1000000200262,
          "status": "Failed",
          "startTime": "2021-09-13T09:13:58Z",
          "endTime": "2021-09-13T09:14:04Z",
          "messageText": "[8008 - Create File List] Directory '/root/testnot' not found ",
          "successFiles": 0,
          "failedFiles": 0,
          "fileDetails": []
        }
      }
    }
  ]
}

```

REST API バージョン 2 リソース

ファイル取り込みタスク REST API バージョン 2 リソースを使用して、タスク ID、実行 ID、またはその両方を使用するか、どちらも使用せずに、特定のジョブタイプの詳細を取得します。

GET 要求

ファイル取り込みタスクのすべてのジョブの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog

タスク ID を使用してすべてのジョブの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?taskId=<taskId>

実行 ID を使用してすべてのジョブの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?runId=<runId>

スキップする行数を指定するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?taskId=<taskId>&offset=<offset>

行制限を指定するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?taskId=<taskId>&rowLimit<rowLimit>

ジョブタイプを指定するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?jobType=<jobType>

表示するファイルイベントの数を指定し、ファイルイベントの制限を含めるには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?runId={{runID}}&fetchFileEvents=true&fileEventsLimit=10

上記のオプションは組み合わせて使用することができます。例えば、次のような URI を使用できます。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?runId=<runId>&taskId=<taskId>&rowLimit=<rowLimit>&offset=<offset>

activityLog の GET URI には、次の属性を使用できます。

フィールド	説明
taskId	ファイル取り込みタスクの ID。
runId	ファイル取り込み実行の ID。
offset	スキップする行数。例えば、最初の 3 行をスキップする場合に使用します。
rowLimit	返す最大行数。指定可能な最大数値は 100 です。デフォルトは 25 です。
jobType	応答に含めるジョブのタイプ。次のいずれかのオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none">- すべて- 完了- アクティブ デフォルトは [すべて] です。

フィールド	説明
fetchFileEvents	ファイルイベントを表示するかどうかを決定します。次のいずれかの値を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> - true。ファイル取り込みタスクはジョブファイルイベントを表示します。 - false。ファイル取り込みタスクはジョブファイルイベントを表示しません。 デフォルトは false です。
fileEventsLimit	返されるファイルイベントの数。fetchFileEvents が true に設定されている場合に適用されます。指定可能な最大数値は 1000 です。デフォルトは 100 です。

GET 応答

activityLog オブジェクトは、次の属性を返します。

フィールド	説明
totalJobCount	ジョブの総数。
taskId	ファイル取り込みタスクの ID。
runId	ファイル取り込み実行の ID。
startedBy	ファイル取り込みタスクを作成したユーザーの名前。
startTime	ジョブの開始時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
endTime	ジョブの終了時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
status	ジョブが正常に完了したかどうかを示します。
logLocation	セッションログの場所。
messageText	ジョブのステータスに関連付けられたコメント。
successFiles	ソースからターゲットに正常に転送されたファイルの数。
failedFiles	ソースからターゲットに転送されなかったファイルの数。

GET の例

次の例は、タスク ID を使用してファイル取り込みジョブの詳細を取得する要求への応答を示しています。

```
{
  "totalJobCount": 1,
  "jobActivityLog": [
    {
      "taskId": "gS7ivoMYo0Li6v7TR7MIe",
      "jobs": [
        {
          "runId": 490176,
          "startedBy": "b2b_pod1",
          "startTime": "2023-05-08T00:20:14Z",
          "endTime": "2023-05-08T00:20:19Z",
          "status": "SUCCESS"
        }
      ]
    }
  ]
}
```

```

        "logLocation": "data/taskLogs/2023-05-08/1000000916286.log"
        "messageText": "Job completed",
        "successFiles": 8,
        "failedFiles": 0
    }
}
]
}

```

次の例は、fetchFileEvents が true に設定されているファイル取り込みジョブの詳細を取得する要求への応答を示しています。

```

{
  "totalJobCount": 1,
  "jobActivityLog": [
    {
      "taskId": "34owubT0kvFe18LdELjXop",
      "jobs": [
        {
          "runId": 496420,
          "startedBy": "atl",
          "startTime": "2023-05-08T07:25:25Z",
          "endTime": "2023-05-08T07:25:54Z",
          "status": "SUCCESS",
          "logLocation": "data/taskLogs/2023-05-08/1000000855619.log",
          "messageText": "Job completed normally",
          "successFiles": 1003,
          "failedFiles": 0,
          "fileDetails": [
            {
              "path": "/root/Arun/May/Target/File_5.txt",
              "size": 12,
              "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
              "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
              "status": "SUCCESS",
              "duration": 1,
              "transferDirection": "UPLOAD"
            },
            {
              "path": "/root/Arun/May/Target/File_12.txt",
              "size": 12,
              "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
              "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
              "status": "SUCCESS",
              "duration": 0,
              "transferDirection": "UPLOAD"
            },
            {
              "path": "/root/Arun/May/Target/File_2.txt",
              "size": 12,
              "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
              "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
              "status": "SUCCESS",
              "duration": 0,
              "transferDirection": "UPLOAD"
            },
            {
              "path": "/root/Arun/May/Target/File_8.txt",
              "size": 12,
              "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
              "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
              "status": "SUCCESS",
              "duration": 0,
              "transferDirection": "UPLOAD"
            },
            {
              "path": "/root/Arun/May/Target/File_10.txt",
              "size": 12,
              "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
              "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",

```


tasks リソース

tasks リソースを使用して、ファイル取り込みタスクを作成、更新、削除、表示します。

ファイル取り込みタスクの実行と監視には、一連の要求および応答が含まれます。ファイル取り込みタスクを実行する方法は次のとおりです。

- tasks GET 要求を送信して、すべてのファイル取り込みタスクのリストを表示します。[「ファイル取り込みタスクの表示」 \(ページ 91\)](#)を参照してください。
- tasks POST 要求を送信して、ファイル取り込みタスクを作成します。[「ファイル取り込みタスクの作成」 \(ページ 95\)](#)を参照してください。
- tasks PUT 要求を送信して、ファイル取り込みタスクを更新します。[「ファイル取り込みタスクの更新」 \(ページ 101\)](#)を参照してください。
- tasks GET 要求を送信して、ファイル取り込みタスクの場所を表示します。[「ファイル取り込みタスクの場所の表示」 \(ページ 104\)](#)を参照してください。
- tasks DELETE 要求を送信して、ファイル取り込みタスクを削除します。[「ファイル取り込みタスクの削除」 \(ページ 105\)](#)を参照してください。

ファイル取り込みタスクの表示

GET 要求を使用してファイル取り込みタスクを表示します。

GET 要求

特定のファイル取り込みタスクの詳細を表示するには、次の URI にファイル取り込みを含めます。

mftsaas/api/v1/mitasks/{{TASK-ID}}

組織のすべてのファイル取り込みタスクの詳細を表示するには、ファイル取り込み ID を省略します。

mftsaas/api/v1/mitasks

以下に例を示します。

GET https://na1.dm-us.informaticacloud.com/mftsaas/api/v1/mitasks

GET 応答

成功した場合はタスクオブジェクトを、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

タスクオブジェクトには、組織のそれぞれのファイル取り込みタスクについて以下の情報が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
taskId	String	タスクに関連付けられている ID 番号。
taskName	String	タスクの名前。
description	String	タスクの説明。
location	String	タスクが存在するプロジェクトおよびフォルダパス。
createTime	Date/Time	タスクが作成された時刻。
updateTime	Date/Time	タスクが最後に更新された時刻。

注: 応答に含まれる作成日時と更新日時は UTC 時間です。

すべてのファイル取り込みタスクを表示する GET 応答の例

次の応答の例は、組織に 3 つのファイル取り込みタスクがあることを示しています。

```
{
  "mitasks": [
    {
      "id": "10NE5Vewzzt10tuKROEDum",
      "name": "A01_UMAR_MITASK2318",
      "description": "",
      "sourceType": "CONNECTION",
      "sourceConnection": {
        "id": "",
        "name": "",
        "type": "local"
      },
      "targetConnection": {
        "id": "0100000B000000000002",
        "name": "ftps",
        "type": "Advanced FTPS"
      },
      "agentGroupId": "01000025000000000002",
      "updatedAt": "2019-01-30T11:17:49Z"
    },
    {
      "id": "9D1tGkAxopJefmUWoG4s48",
      "name": "A01_UMAR_MITASK3354",
      "description": "",
      "sourceType": "CONNECTION",
      "sourceConnection": {
        "id": "0100000B000000000000M",
        "name": "AzureBlob",
        "type": "Azure Blob"
      },
      "targetConnection": {
        "id": "0100000B0000000000000L",
        "name": "SFTP_Conn",
        "type": "Advanced SFTP"
      },
      "agentGroupId": "01000025000000000002",
      "updatedAt": "2019-01-30T06:42:19Z"
    },
    {
      "id": "4hcTFqKV0Qr11z4d6pGUMP",
      "name": "A01_UMAR_MITASK5124",
      "description": "",
      "sourceType": "CONNECTION",
      "sourceConnection": {
        "id": "0100000B000000000004IO",
        "name": "S3",
        "type": "AmazonS3"
      },
      "targetConnection": {
        "id": "",
        "name": "",
        "type": "local"
      },
      "agentGroupId": "01000025000000000002",
      "updatedAt": "2019-01-30T06:35:01Z"
    }
  ]
}
```

ファイルピックアップオプションとしてファイルパターンを使用したファイル取り込みタスクを示す GET 応答の例

次の応答の例は、ファイル取り込みタスクの詳細を示しています。

```
IDS-SESSION-ID:{{IDS-SESSION-ID}}
Accept:application/json
```

```
{
  "id": "j90LB12nqY0bykdFSUMp02",
  "name": "FTPSrcTarget",
  "location": {
    "projectId": "dNC6zbp2LI8ghrKP06hpwn",
    "projectName": "Hardening"
  },
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "0100000B00000000028M",
    "name": "CCI_FTPS",
    "type": "Advanced FTPS V2"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "0100000B00000000001JR",
    "name": "CCI_FTP_Lin",
    "type": "Advanced FTP V2"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePattern": "*.txt",
    "sourceTransferMode": "AUTO",
    "filePatternType": "WILDCARD",
    "includeSubfolder": "false",
    "sourceDirectory": "/root/suraj/qa/test/automation/RSFiles",
    "checkDuplicate": "false",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60",
    "postPickupAction": "KEEP"
  },
  "targetParameters": {
    "fileExistsAction": "APPEND_TIMESTAMP",
    "targetDirectory": "/",
    "targetTransferMode": "AUTO"
  },
  "agentGroupId": "010000250000000000003",
  "createdTime": "2019-02-04T10:34:08Z",
  "updatedTime": "2019-02-04T11:04:02Z",
  "filePickupOption": "PATTERN"
}
```

ファイルピックアップオプションとしてファイルリスト（ファイルパス）を使用したファイル取り込みタスクを示す GET 応答の例

次の応答の例は、filePickupOption タイプを FILELIST として、その sourceParameters に filePickupFilePath を指定したファイル取り込みタスクを示しています。このタスクは指定されたピックアップファイルを読み取って、処理する必要のあるファイルを識別することを示しています。

```
{
  "id": "aFHWKrr1RwycuBRBLTtt2t",
  "name": "FilePath_CheckStability",
  "location": {
    "projectId": "OggRhrI8ZziguyBxHBzuG0",
    "projectName": "Default"
  },
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePickupFilePath": "test.txt",

```

```

        "sourceDirectory": "/root/test",
        "checkDuplicate": "false",
        "stabilityCheckInterval": "60",
        "postPickupAction": "KEEP",
        "filepickupByName": "FILEPATH",
        "batchSize": "5",
        "fileStability": "true",
        "stabilityCheckInterval": "60"
      },
      "targetParameters": {
        "fileExistsAction": "OVERWRITE",
        "targetDirectory": "/root/testCheckStability"
      },
      "agentGroupId": "01001D25000000000002",
      "createdTime": "2021-08-13T09:38:03Z",
      "updatedTime": "2021-08-13T09:39:02Z",
      "logLevel": "NORMAL",
      "filePickupOption": "FILELIST"
    }
  }
}

```

ファイルピックアップオプションとしてファイルリストを使用したファイル取り込みタスクを示す GET 応答の例

次の応答の例は、filePickupOption タイプを FILELIST とし、filepickupByName を LISTOFFILES として、その sourceParameters に filePickupFileList を指定したファイル取り込みタスクを示しています。このタスクは処理する指定されたピックアップファイルを読み取って、識別することを示しています。

```

{
  "id": "2bT1Ao1XbAGLE7I5qauSAW",
  "name": "DedupFilelist_pushdown",
  "location": {
    "projectId": "0ggRhrI8ZziguyBxHBzuG0",
    "projectName": "Default"
  },
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "01001D0B000000000005PP",
    "name": "ADLSGen2",
    "type": "Azure Data Lake Gen2"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "01001D0B000000000005PU",
    "name": "AzureDW_Gen2",
    "type": "Azure DW"
  },
  "sourceParameters": {
    "sourceDirectory": "/B2B/MI",
    "checkDuplicate": "true",
    "postPickupAction": "KEEP",
    "filepickupByName": "LISTOFFILES",
    "blockSize": "8388608",
    "filePickupFileList": "File1.txt,File2.txt",
    "batchSize": "5",
    "timeoutInterval": "60",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60"
  },
  "targetParameters": {
    "commandType": "auto",
    "targetTableName": "test1234",
    "isPushdown": "true",
    "ingestionMethod": "polybase",
    "targetSchemaName": "testing",
    "isTruncateTarget": "true"
  },
  "agentGroupId": "01001D25000000000002",
  "createdTime": "2021-04-29T08:47:57Z",
  "updatedTime": "2021-04-29T08:47:57Z",
}

```

```

    "logLevel": "NORMAL",
    "filePickupOption": "FILELIST"
  }
}

```

ファイル取り込みタスクの作成

POST 要求を使用してファイル取り込みタスクを作成します。

POST 要求

API を使用してファイル取り込みタスクを作成するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	タスクの名前。
location	String	-	プロジェクトの場所。
projectId	String	-	プロジェクトに関連付けられている ID 番号。
projectName	String	-	プロジェクトの名前。
description	String	-	タスクの説明。
sourceConnection	String	-	ファイルの転送元のディレクトリです。
sourceType	String	○	ファイルの転送タイプを決定します。次のいずれかのオプションを入力します。 - CONNECTION。ソースとして接続を使用します。 - FILELISTENER。ソースとしてファイルリスナを使用します。
includesubfolder	String	-	サブフォルダのファイルを転送に含めるかどうかを決定します。この値を true に設定すると、定義したソースディレクトリのすべてのサブフォルダからファイルが転送されます。値は true または false です。
checkDuplicate	String	-	重複するファイルをチェックするかどうかを決定します。値は true または false です。この値を true に設定すると、重複するファイルがチェックされてファイル転送を拒否されます。この値を false に設定すると、すべてのファイルが転送されます。
filePickupOption	String	○	ファイルのピックアップ方法を決定します。次のいずれかのオプションを入力します。 - FILELIST。ファイル取り込みタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。 - PATTERN。ファイル取り込みタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。

フィールド	タイプ	必須	説明
allowConcurren- cy	String	-	複数のジョブを同時に実行するかどうかを決定します。複数のジョブを同時に実行する場合は、値を true に設定します。しない場合は、値を false に設定します。 警告: ターゲットに重複ファイルが含まれている場合、同時ジョブを実行すると予期しない結果が生じる可能性があります。
filePatternType	String	○	これは、filePickupOption が PATTERN の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイルパターンタイプです。次のいずれかのオプションを入力します。 - wildcard - regex
filePattern	String	○	選択したファイルパターンに応じてファイルパターンタイプを入力します。 - wildcard。以下のワイルドカード文字フィルタを使用できます。 - アスタリスク (*) はどんな数の文字とも一致します。 - 疑問符 (?) は 1 つの文字と一致します。 - regex。正規表現を使用してファイルパターンを照合します。以下に例を示します。 - 次の構文を使用すると、名前に out、foo、baz を含むファイルを除くすべてのファイルリスニングします。 ^(!.*(?:out baz foo)).*\$ all except - 次の構文を使用すると、拡張子が doc、docx、pdf のすべてのファイルリスニングします。([a-zA-Z0-9\s_\\.\-\\(\):])+(.doc .docx .pdf)\$
filepickupByNam- e	String	○	これは、filePickupOption が FILELIST の場合に適用されます。次のいずれかのオプションを入力します。 - filepath。ピックアップするファイルのリストを含むパスを指定し、ファイルパスを入力します。 - listoffiles。ピックアップするファイルのリストを指定し、ファイル名のカンマ区切りリストを入力します。ファイル名を指定する前後にスペースがないことを確認します。
fileStability	Boolean	-	ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかをタスクで確認するかどうかを決定します。次のいずれかの値を入力します。 - true。ファイル取り込みタスクは、ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかを確認します。 - false。ファイル取り込みタスクは、ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかを確認しません。 デフォルトは false です。
stabilityCheckInt- erval	Int	-	ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。 fileStability オプションが true に設定されている場合にのみ、stabilityCheckInterval フィールドに値を指定できます。安定性確認間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。

フィールド	タイプ	必須	説明
postPickupAction	String	-	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - KEEP。ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - DELETE。ソースディレクトリからファイルを削除します。 - RENAME。ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイル名を変更する場合は、ファイル取り込みがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。 - ARCHIVE。別の場所にファイルをアーカイブします。アーカイブディレクトリを指定する必要があります。
targetConnection	String	○	ファイルの転送先ディレクトリの詳細です。
taskActions	String	-	<p>ファイル取り込みタスクのファイルを処理するアクション。複数のアクションを追加する場合、ファイル取り込みはファイルを順番に処理します。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
actions			<p>ファイル処理アクション。</p> <p>次のファイル処理アクションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ファイルを圧縮するには、Compression と入力します。 - ファイルを圧縮解除するには、Decompression と入力します。 - ファイルを暗号化するには、Encryption と入力します。 - ファイルを復号化するには、Decryption と入力します。 - 複数のフォルダから単一のフォルダにファイルを移動し、ターゲットディレクトリ内のファイルの名前を変更するには、File Operations と入力します。 - ICAP プロトコルを使用してファイルにウイルスがないかどうかをスキャンするには、Virus Scan と入力します。
action type			<p>追加するアクションに応じたアクションタイプを入力します。</p> <p>ファイルを圧縮するには、次のいずれかの方法を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Zip - Tar - Gzip - Bzip2 <p>ファイルを圧縮解除するには、次のいずれかの方法を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Unzip - Untar - Gunzip - Bunzip2 <p>ファイルを暗号化するには、PGP を追加します。プロパティにキー ID を入力します。</p> <p>注: ファイル取り込みタスクは、ファイルの暗号化に PGP 方式を使用します。CLI を使用してキーリングを生成します。[キー ID] にキーリングを入力します。キーリング CLI の詳細については、『タスク』のキーリングコマンドリファレンスを参照してください。</p> <p>ファイルを復号化するには、PGP を追加します。プロパティにキーパスフレーズを入力します。</p> <p>注: ファイル取り込みタスクは、ファイルの暗号化に PGP 方式を使用します。CLI を使用してキーパスフレーズを生成します。[キーパスフレーズ] にキーパスフレーズを入力します。キーリング CLI の詳細については、『タスク』のキーリングコマンドリファレンスを参照してください。</p>

POST 要求の例

ファイルピックアップオプションとしてファイルパターンを使用してファイル取り込みタスクを作成する際にはこの例を参考にしてください。

```
POST <serverURL>/public/core/v1/mitasks
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
  "name": "Green Green v2",
  "location": {
    "projectId": "9JDN0BX9M31e2AD1dIUv6M",
    "projectName": "Default"
  },
}
```

```

    "description": "",
    "sourceType": "CONNECTION",
    "sourceConnection": {
      "id": "",
      "name": "",
      "type": "local"
    },
    "sourceParameters": {
      "filePattern": "*.txt",
      "filePatternType": "WILDCARD",
      "includeSubfolder": "false",
      "sourceDirectory": "C:\\Monitor",
      "checkDuplicate": "false",
      "fileStability": "true",
      "stabilityCheckInterval": "60",
      "postPickupAction": "KEEP"
    },
    "targetConnection": {
      "id": "01000008000000000002",
      "name": "ADLS",
      "type": "Azure Data Lake"
    },
    "targetParameters": {
      "adlsTargetLocation": "/satyen/green"
    },
    "agentGroupId": "01000025000000000002",
    "filePickupOption": "PATTERN",
    "logLevel": "NORMAL",
    "allowConcurrency": "true",
    "taskActions": [
      {
        "action": "Compression",
        "actionType": "Zip",
        "properties": {}
      }
    ]
  }
}

```

ファイルピックアップオプションとしてファイルパスを使用してファイル取り込みタスクを作成する際にはこの例を参考にしてください。

```

POST <serverURL>/public/core/v1/mitasks
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
  "name": "FilePath_RestAPI1",
  "location": {
    "projectId": "OggRhrI8ZziguyBxHBzuG0",
    "projectName": "Default"
  },
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePickupFilePath": "test.txt",
    "sourceDirectory": "/root/test",
    "checkDuplicate": "false",

```

```

        "fileStability": "true",
        "stabilityCheckInterval": "60",
        "postPickupAction": "KEEP",
        "filepickupByName": "FILEPATH",
        "batchSize": "5"
    },
    "targetParameters": {
        "fileExistsAction": "OVERWRITE",
        "targetDirectory": "/root/testCheckStability"
    },
    "agentGroupId": "01001D25000000000002",
    "logLevel": "NORMAL",
    "filePickupOption": "FILELIST",
    "allowConcurrency": "true"
}

```

ファイルピックアップオプションとしてファイルリストを使用してファイル取り込みタスクを作成する際にはこの例を参考にしてください。

```

POST <serverURL>/public/core/v1/mitasks
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
    "name": "DedupFilelist_RestAPI",
    "location": {
        "projectId": "OggRhrI8ZziguyBxHBzuG0",
        "projectName": "Default"
    },
    "description": "",
    "sourceType": "CONNECTION",
    "sourceConnection": {
        "id": "01001D0B00000000005PP",
        "name": "ADLSGen2",
        "type": "Azure Data Lake Gen2"
    },
    "targetConnection": {
        "id": "01001D0B00000000005PU",
        "name": "AzureDW_Gen2",
        "type": "Azure DW"
    },
    "sourceParameters": {
        "sourceDirectory": "/B2B/MI",
        "checkDuplicate": "true",
        "postPickupAction": "KEEP",
        "filepickupByName": "LISTOFFILES",
        "blockSize": "8388608",
        "filePickupFileList": "File1.txt,File2.txt",
        "batchSize": "5",
        "timeoutInterval": "60",
        "fileStability": "true",
        "stabilityCheckInterval": "60"
    },
    "targetParameters": {
        "commandType": "auto",
        "targetTableName": "test1234",
        "isPushdown": "true",
        "ingestionMethod": "polybase",
        "targetSchemaName": "testing",
        "isTruncateTarget": "true"
    },
    "agentGroupId": "01001D25000000000002",
    "logLevel": "NORMAL",
    "filePickupOption": "FILELIST",
    "allowConcurrency": "true"
}

```

POST 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "cEMWKp1bm44bNf5aMjbJ4U",
  "name": "Green Green v2",
  "location": {
    "projectId": "9JDNOBX9M31e2AD1dIUv6M",
    "projectName": "Default"
  },
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePattern": "*.txt",
    "filePatternType": "WILDCARD",
    "includeSubfolder": "false",
    "sourceDirectory": "C:\\\\Monitor",
    "checkDuplicate": "false",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60",
    "postPickupAction": "KEEP"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "0100000B00000000000002",
    "name": "ADLS",
    "type": "Azure Data Lake"
  },
  "targetParameters": {
    "adlsTargetLocation": "/satyen/green"
  },
  "agentGroupId": "0100002500000000000002",
  "createdTime": "2018-08-27T07:03:32Z",
  "updatedTime": "2018-08-29T12:14:58Z",
  "taskActions": [
    {
      "action": "Compression",
      "actionType": "Zip",
      "properties": {}
    }
  ]
}
```

注: 応答に表示される作成日時と更新日時は UTC 時間です。

ファイル取り込みタスクの更新

PUT 要求を使用してファイル取り込みタスクを更新します。

PUT 要求

ファイル取り込みタスクを更新するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks/<taskID>

PUT 要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	-	タスクの ID 番号。
name	String	○	タスクの名前。
description	String	-	タスクの説明。
sourceType	String	○	ファイルの転送タイプを決定します。次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none">- CONNECTION。ソースとして接続を使用します。- FILELISTENER。ソースとしてファイルリスナを使用します。
sourceConnection	String	-	ファイルの転送元のディレクトリです。
includeSubfolder	String	-	値は true または false です。この値を true に設定すると、定義したソースディレクトリのすべてのサブフォルダからファイルが転送されます。
checkDuplicate	String	-	値は true または false です。この値を true に設定すると、重複するファイルがチェックされてファイル転送を拒否されます。この値を false に設定すると、すべてのファイルが転送されます。
filePatternType	String	○	転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none">- Wildcard- Regex
filePattern	String	○	選択したファイルパターンに応じてパターンタイプを入力します。 <ul style="list-style-type: none">- wildcard。以下のワイルドカード文字フィルタを使用できます。<ul style="list-style-type: none">- アスタリスク (*) はどんな数の文字とも一致します。- 疑問符 (?) は 1 つの文字と一致します。- Regex。正規表現を使用してファイルパターンを照合します。以下に例を示します。<ul style="list-style-type: none">- 次の構文を使用すると、名前に out、foo、baz を含むファイルを除くすべてのファイルリスニングします。^(?!.*(?:out baz foo)).*\$ à all except- 次の構文を使用すると、拡張子が doc、docx、pdf のすべてのファイルリスニングします。([a-zA-Z0-9_\\.\-\\(\):])+(.doc .docx .pdf)\$ à
fileStability	Boolean	-	ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかをタスクで確認するかどうかを決定します。次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none">- true。ファイル取り込みタスクは、ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかを確認します。- false。ファイル取り込みタスクは、ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかを確認しません。 デフォルトは false です。

フィールド	タイプ	必須	説明
stabilityCheckInterval	Int	-	<p>ファイル取り込みタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>fileStability オプションが true に設定されている場合にのみ、stabilityCheckInterval フィールドに値を指定できます。</p> <p>安定性確認間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。</p>
postPickupAction	String	-	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - KEEP。ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - DELETE。ソースディレクトリからファイルを削除します。 - RENAME。ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイル名を変更する場合は、ファイル取り込みがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。 - ARCHIVE。別の場所にファイルをアーカイブします。アーカイブディレクトリを指定する必要があります。
targetConnection	String	○	ファイルの転送先ディレクトリの詳細です。

PUT 要求の例

ファイル取り込みタスクを更新する際にはこの例を参考にしてください。

```
PUT <serverUrl>/public/core/v1/mitasks
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
  "id": "cEMWKpibm44bNf5aMjbJ4U",
  "name": "Green Green v2",
  "description": "Green Green v2 Description",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePattern": "*.txt",
    "filePatternType": "WILDCARD",
    "includeSubfolder": "false",
    "sourceDirectory": "C:\\\\Monitor",
    "checkDuplicate": "false",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60",
    "postPickupAction": "KEEP"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "01000008000000000002",
    "name": "ADLS",
    "type": "Azure Data Lake"
  },
  "targetParameters": {
    "adlsTargetLocation": "/satyen/green"
  },
  "agentGroupId": "01000025000000000002"
}
```

PUT 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "cEMWKpibm44bNf5aMjbJ4U",
  "name": "Green Green v2",
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePattern": "*.txt",
    "filePatternType": "WILDCARD",
    "includeSubfolder": "false",
    "sourceDirectory": "C:\\\\Monitor",
    "checkDuplicate": "false",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60",
    "postPickupAction": "KEEP"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "0100000B000000000002",
    "name": "ADLS",
    "type": "Azure Data Lake"
  },
  "targetParameters": {
    "adlsTargetLocation": "/satyen/green"
  },
  "agentGroupId": "01000025000000000002",
  "createdTime": "2018-08-27T07:03:32Z",
  "updatedTime": "2018-08-29T12:14:58Z"
}
```

注: 応答に表示される作成日時と更新日時は UTC 時間です。

ファイル取り込みタスクの場所の表示

GET 要求を使用して、ファイル取り込みタスクの場所を表示します。

GET 要求

次の URI を使用して、ファイル取り込みタスクの場所を取得します。

/api/v1/mitasks?resolveLocation=true

GET 応答の例

ファイル取り込みタスクのファイルの場所を取得する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "miTasks": [
    {
      "id": "1ONE5Vewzzt10tuKROEDum",
      "name": "A01_UMAR_MITASK2318",
      "location": {
        "folderId": "djgFZU6HMo4gCKYghtQvgD",
        "folderName": "A_01_UMAR",
        "projectId": "503RTpKDSSLlwmkwTXLQx",
        "projectName": "Default"
      },
      "description": ""
    }
  ]
}
```



```

        "sourceType": "CONNECTION",
        "sourceConnection": {
          "id": "",
          "name": "",
          "type": "local"
        },
        "targetConnection": {
          "id": "0100000B00000000000002",
          "name": "ftps",
          "type": "Advanced FTPS"
        },
        "agentGroupId": "0100002500000000000002",
        "createdTime": "2019-01-28T09:54:53Z",
        "updatedAt": "2019-01-30T11:17:49Z"
      },
      {
        "id": "9D1tGkAxopJefmUWoG4s48",
        "name": "A01_UMAR_MITASK3354",
        "location": {
          "folderId": "digFZU6HMo4gCKYghtQvgD",
          "folderName": "A_01_UMAR",
          "projectId": "503RTpKDSSLlwmkwTXLQx",
          "projectName": "Default"
        },
        "description": "",
        "sourceType": "CONNECTION",
        "sourceConnection": {
          "id": "0100000B00000000000000M",
          "name": "AzureBlob",
          "type": "Azure Blob"
        },
        "targetConnection": {
          "id": "0100000B00000000000000L",
          "name": "SFTP_Conn",
          "type": "Advanced SFTP"
        },
        "agentGroupId": "0100002500000000000002",
        "createdTime": "2019-01-30T06:36:28Z",
        "updatedAt": "2019-01-30T06:42:20Z"
      }
    ]
  }
}

```

ファイル取り込みタスクの削除

DELETE 要求を使用してファイル取り込みタスクを削除します。

DELETE 要求

ファイル取り込みタスクを削除するには、次の URI に API を使用してそのタスクのタスク ID を含めます。

mftsaas/api/v1/mitasks/<taskID>

索引

A

action

説明 [10](#)

Amazon Redshift V2 ターゲット

ファイル取り込みタスク [50](#)

プロパティ [50](#)

Amazon S3 V2 ソース

ファイル取り込みタスク [21](#)

プロパティ [21](#)

Amazon S3 V2 ターゲット

ファイル取り込みタスク [53](#)

プロパティ [53](#)

C

Cloud アプリケーション統合コミュニティ

URL [5](#)

Cloud 開発者コミュニティ

URL [5](#)

Cloud 統合ハブのターゲット

ファイル取り込みタスク [53](#)

プロパティ [53](#)

D

Databricks Delta ターゲット

ファイル取り込みタスク [54](#)

プロパティ [54](#)

G

Google BigQuery V2 ターゲット

ファイル取り込みタスク [54](#)

プロパティ [54](#)

Google Cloud Storage V2 ソース

ファイル取り込みタスク [26](#)

プロパティ [26](#)

Google Cloud Storage V2 ターゲット

ファイル取り込みタスク [55](#)

プロパティ [55](#)

H

Hadoop Files V2 ソース

ファイル取り込みタスク [28](#)

プロパティ [28](#)

Hadoop Files V2 ターゲット

ファイル取り込みタスク [56](#)

プロパティ [56](#)

I

Informatica Intelligent Cloud Services

Web サイト [5](#)

Informatica グローバルカスタマサポート

連絡先情報 [6](#)

M

Microsoft Azure Blob Storage V3 ソース

ファイル取り込みタスク [33](#)

プロパティ [33](#)

Microsoft Azure Blob Storage V3 ターゲット

ファイル取り込みタスク [57](#)

プロパティ [57](#)

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ソース

ファイル取り込みタスク [36](#)

プロパティ [36](#)

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2 ターゲット

ファイル取り込みタスク [58](#)

プロパティ [58](#)

Microsoft Azure Data Lake Store V3 ソース

ファイル取り込みタスク [38](#)

プロパティ [38](#)

Microsoft Azure Data Lake Store ターゲット

ファイル取り込みタスク [58](#)

プロパティ [58](#)

Microsoft Azure Synapse SQL Data ターゲット

プロパティ [59](#)

Microsoft Azure Synapse SQL ターゲット

ファイル取り込みタスク [59](#)

Microsoft Fabric OneLake ソース

ファイル取り込みタスク [41](#)

プロパティ [41](#)

Microsoft Fabric OneLake ターゲット

ファイル取り込みタスク [62](#)

プロパティ [62](#)

R

REST API

ファイル取り込みタスク [91](#)

ファイル取り込みタスクの更新 [101](#)

ファイル取り込みタスクの作成 [95](#)

ファイル取り込みタスクの削除 [105](#)

S

Snowflake Cloud Data Warehouse V2 ターゲット

プロパティ [62](#)

Snowflake Data Cloud V2 ターゲット

ファイル取り込みタスク [62](#)

W

Web サイト [5](#)

あ

アップグレード通知 [6](#)

し

システムステータス [6](#)

す

ステータス
Informatica Intelligent Cloud Services [6](#)

ふ

ファイル取り込み
スケジュールの設定 [70](#), [71](#)
ファイル取り込みタスク
Advanced FTP V2 ソース [13](#)

ファイル取り込みタスク (続く)

Advanced FTP V2 ターゲット [47](#)
Advanced FTPS V2 ソース [16](#)
Advanced FTPS V2 ターゲット [48](#)
Advanced SFTP V2 ソース [18](#)
Advanced SFTP V2 ターゲット [49](#)
Cloud 統合ハブ [24](#)
REST API [91](#), [95](#), [101](#), [105](#)
ソース [7](#)
ソース設定 [13](#)
ターゲット [9](#)
ターゲットの設定 [47](#)
ファイルリスナ [24](#)
ランタイムオプション [11](#)
ローカルフォルダソース [30](#)
ローカルフォルダターゲット [56](#)
実行 [72](#)
設定 [12](#)
説明 [7](#)
前提条件 [12](#)
定義 [12](#)

め

メンテナンスの停止 [6](#)